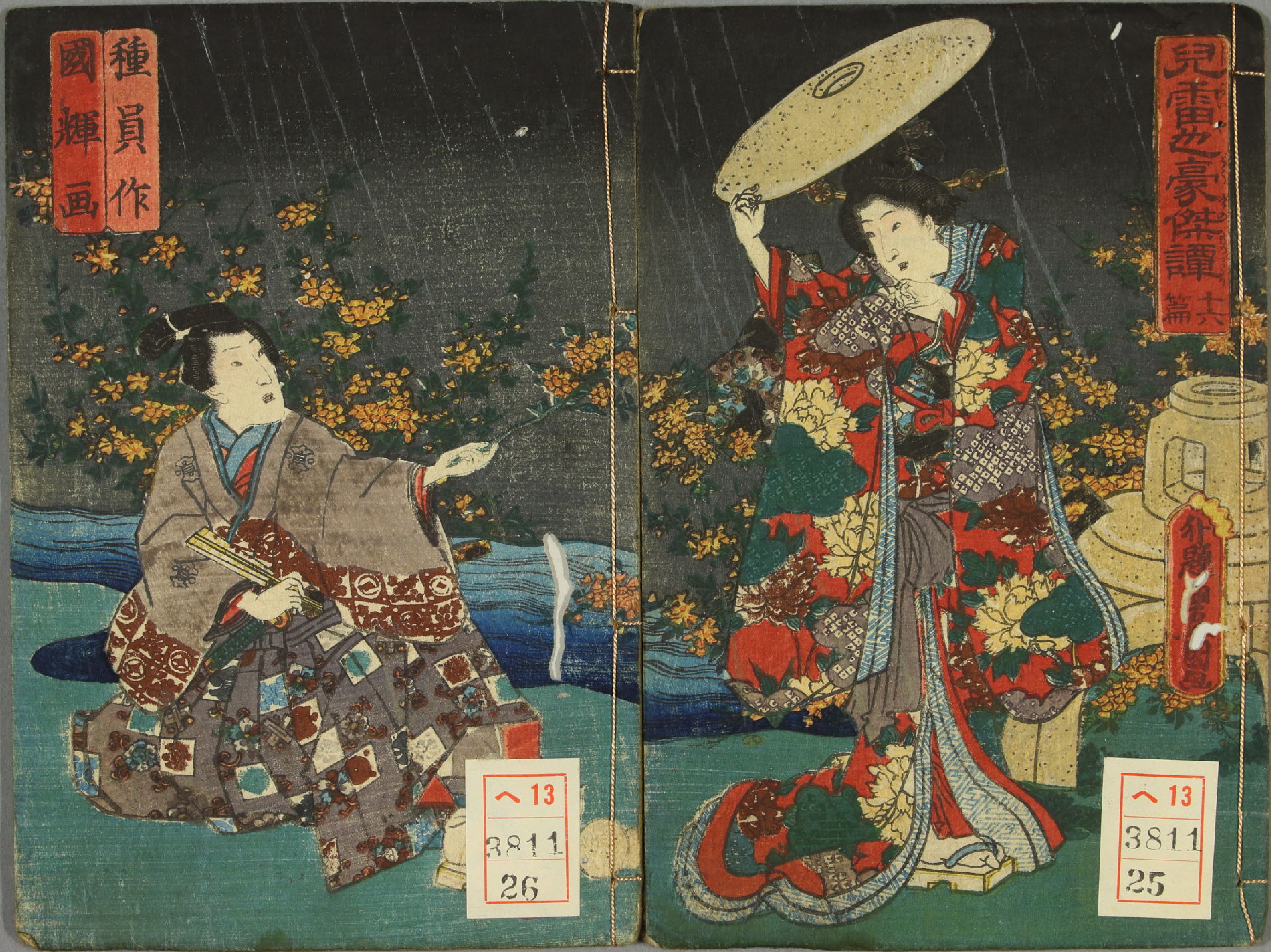


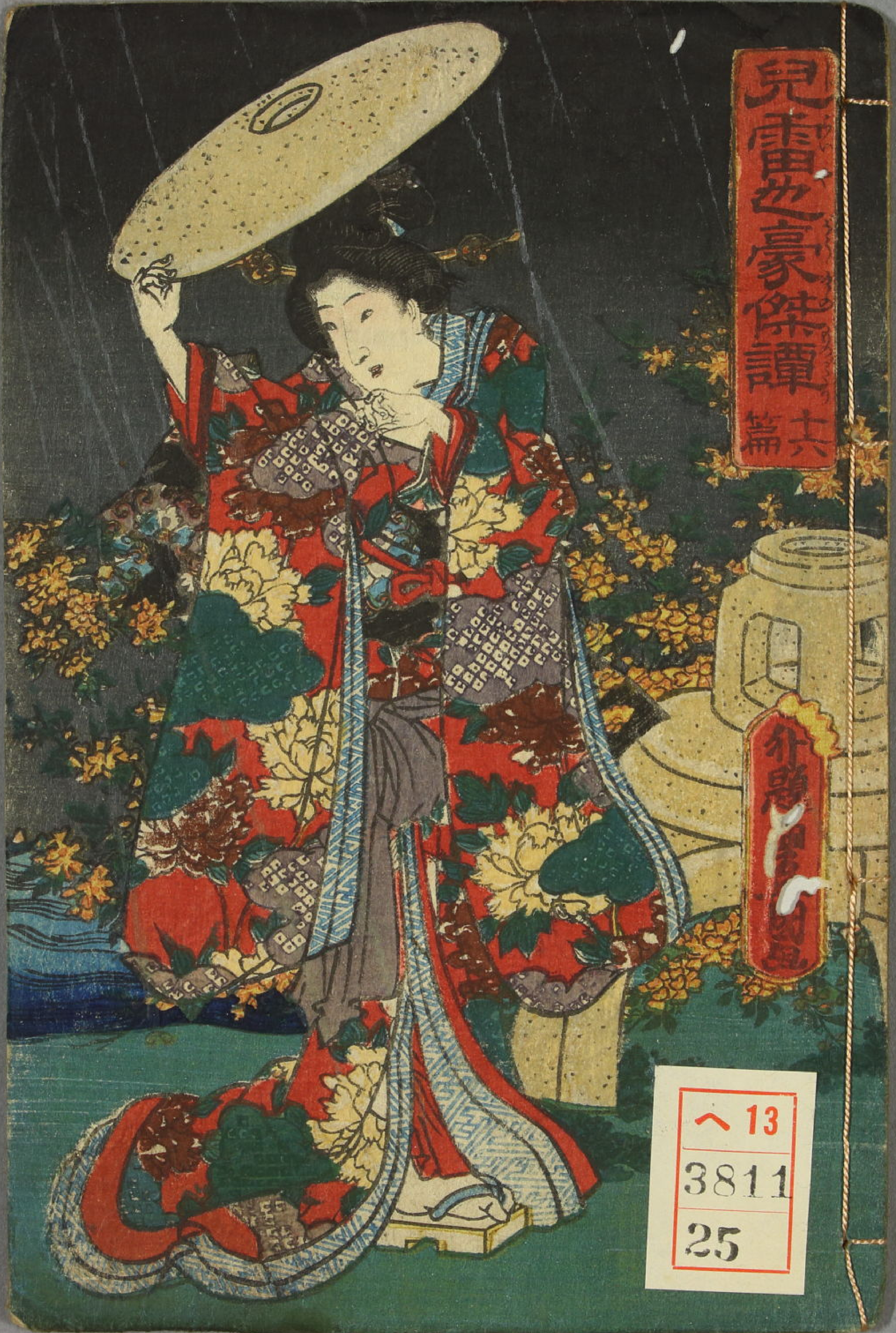
兒雷也豪傑譚 十六篇

外題[illegible]画

種員作
國輝画

へ13
3811
25

へ13
3811
26

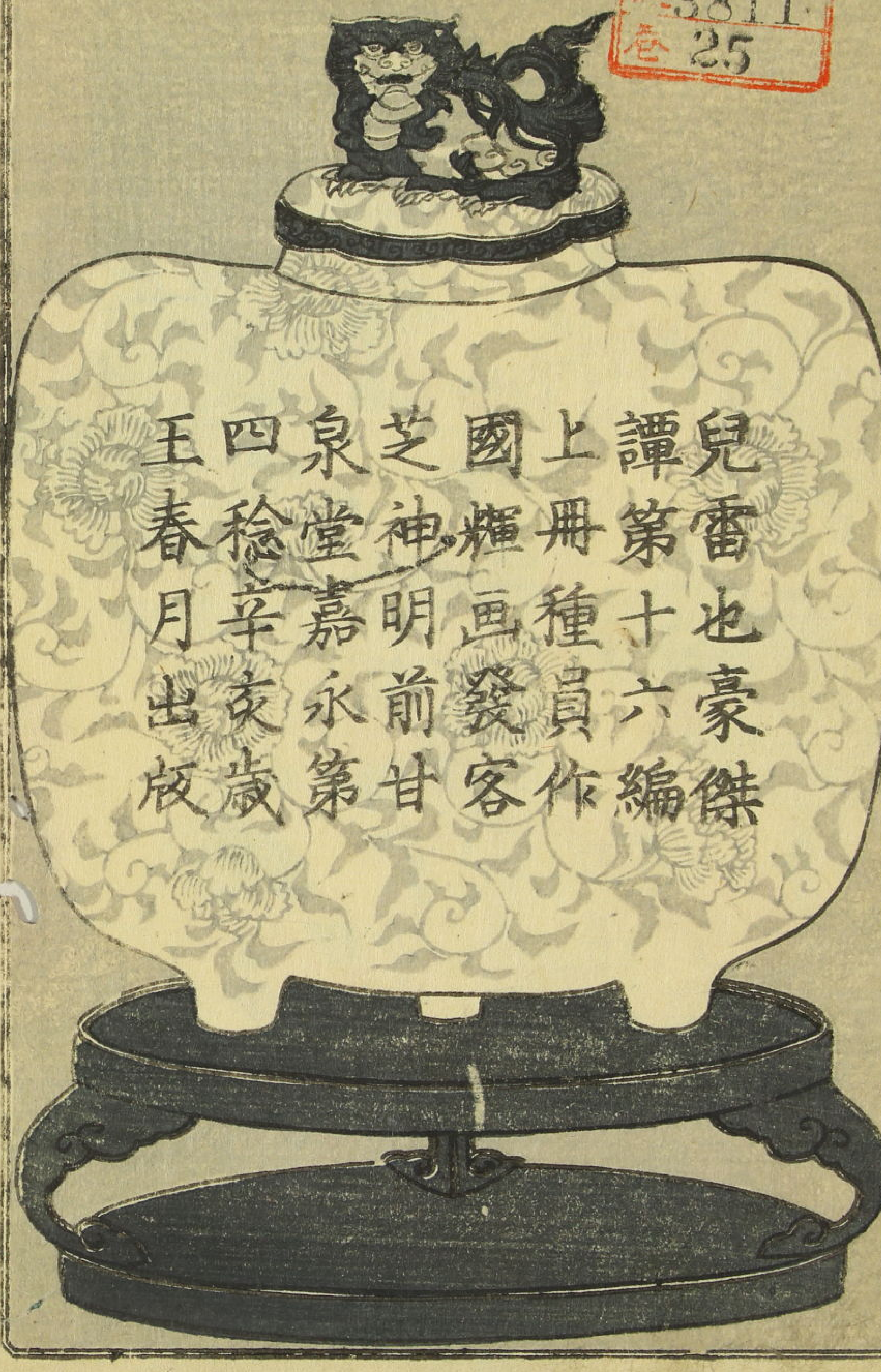


兒雷也豪傑譚 十六篇

外題[illegible]画

へ 13
3811
25

門 へ 13
號 3811
巻 25

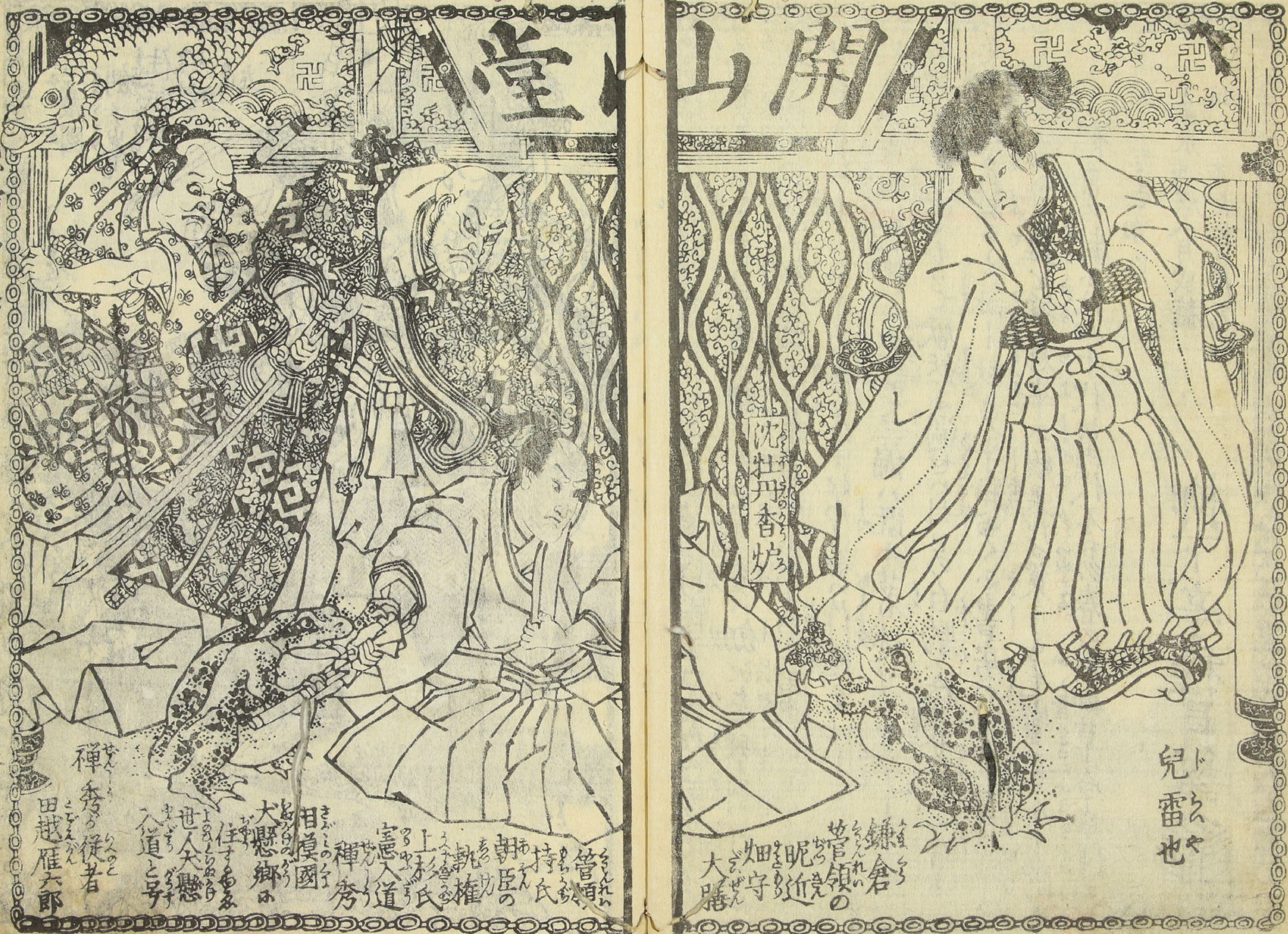


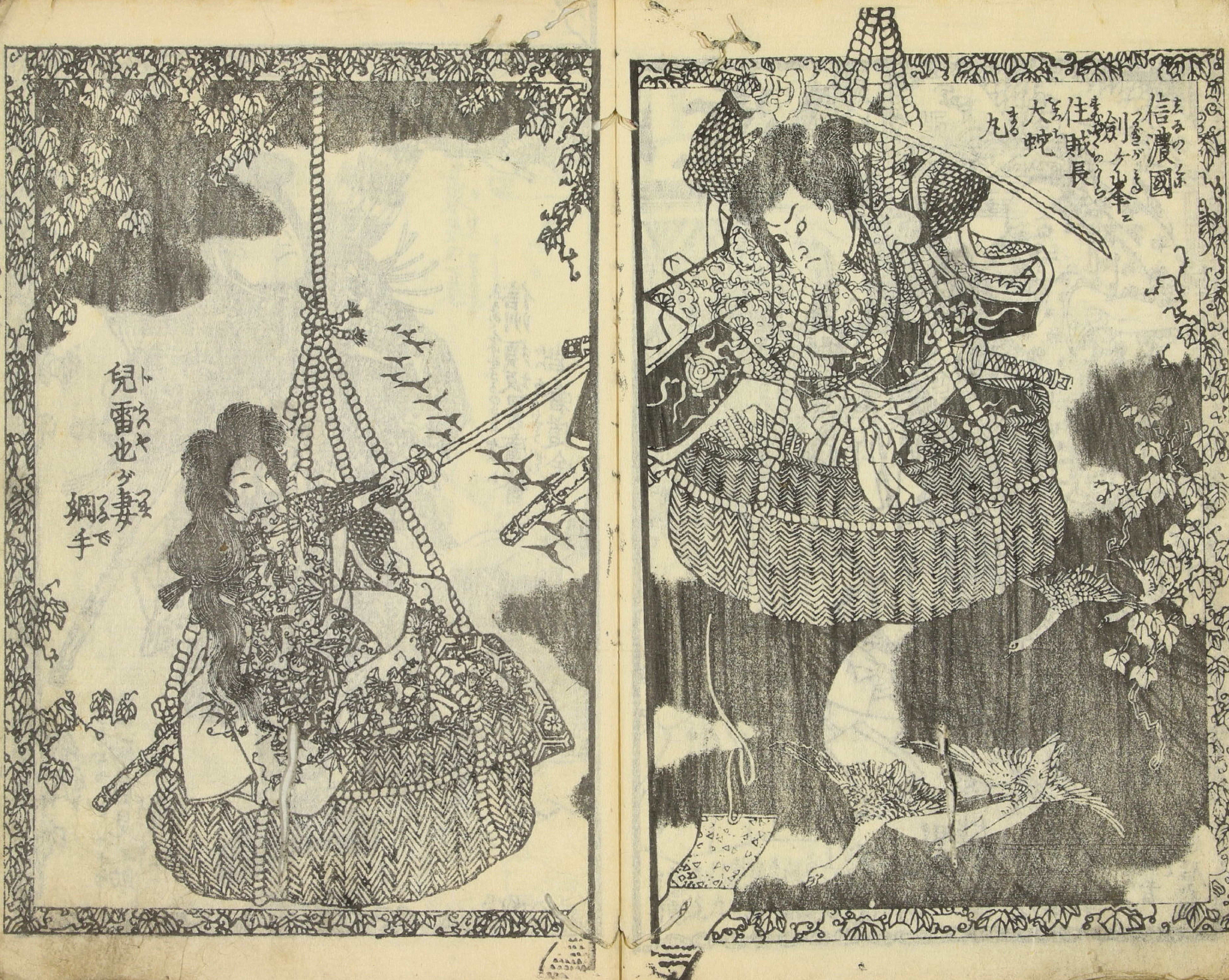
兒雷也豪傑
譚第十六編
上冊種員作
國輝画發客
芝神明前甘
泉堂嘉永第
四稔辛亥歲
王春月出版

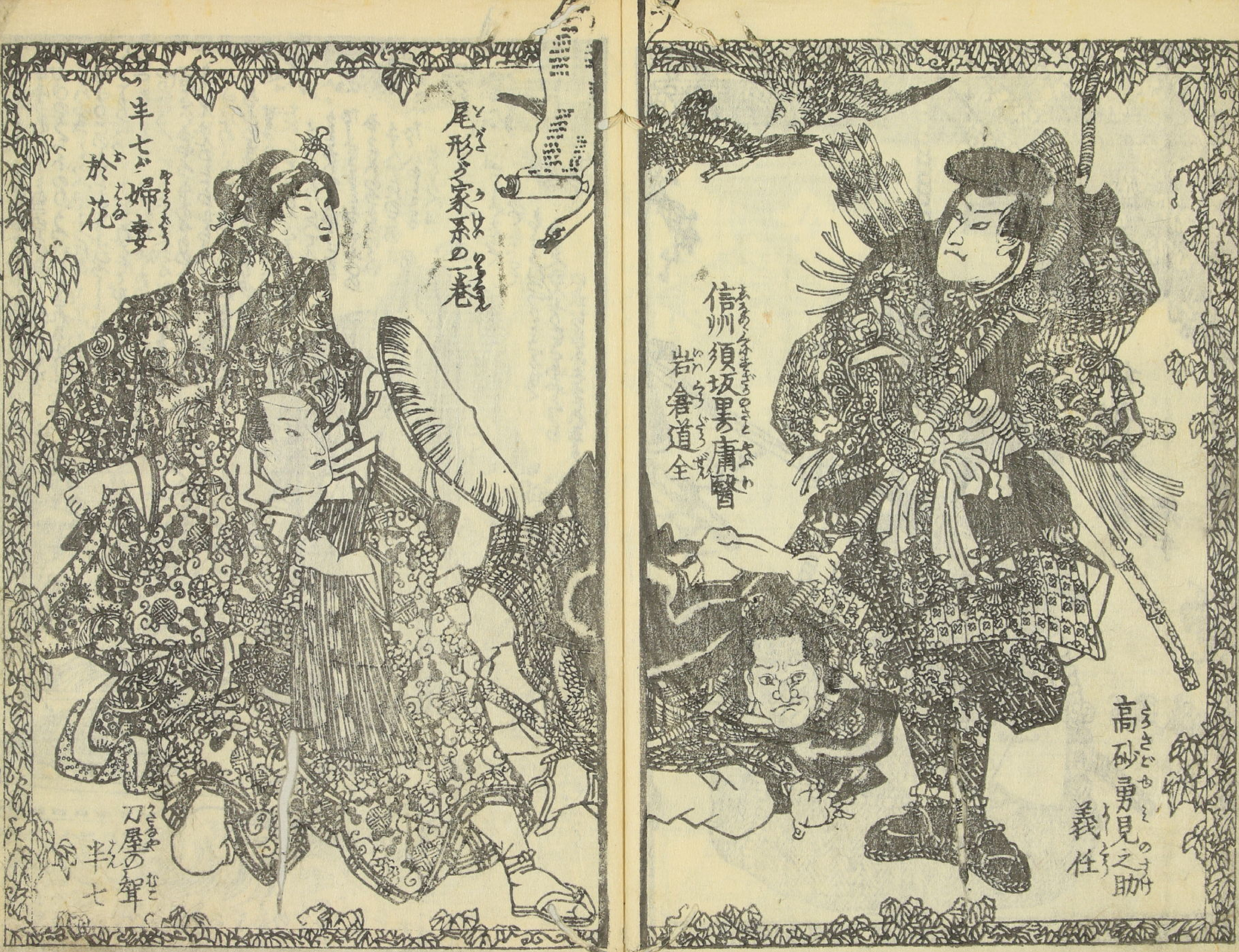
毛寳ハ亀ニ乗費長房ハ鶴ニ乗呂洞賓ハ劔に乗琴高公ハ鯉ニ乗し乗ニ商山の四皓ハ龍の頭上ニ乗巻中ニ出る兒雷也ハ虹ニ乗ニと数度るゝされ候も去年の春足下にあらざれハ作継えじと發客の強言ニ無此嗣編と兼諾て三編ハ既ニ著述せしが今年ハ夏冬の初候より所労ありて厭然ニ過せバ月日の白駒疾着て風の音ニぞおどろかれぬると詠し秋さへ半越ゆくニ書房の催促最敏くて寛々怱ニ毛錐を操怱卒ニ綴果たる策子も毛寳長房が跨とまる鶴亀の齢ニ比ぶ千代萬代不易春の御伽草今童達の弄翫となすも而已

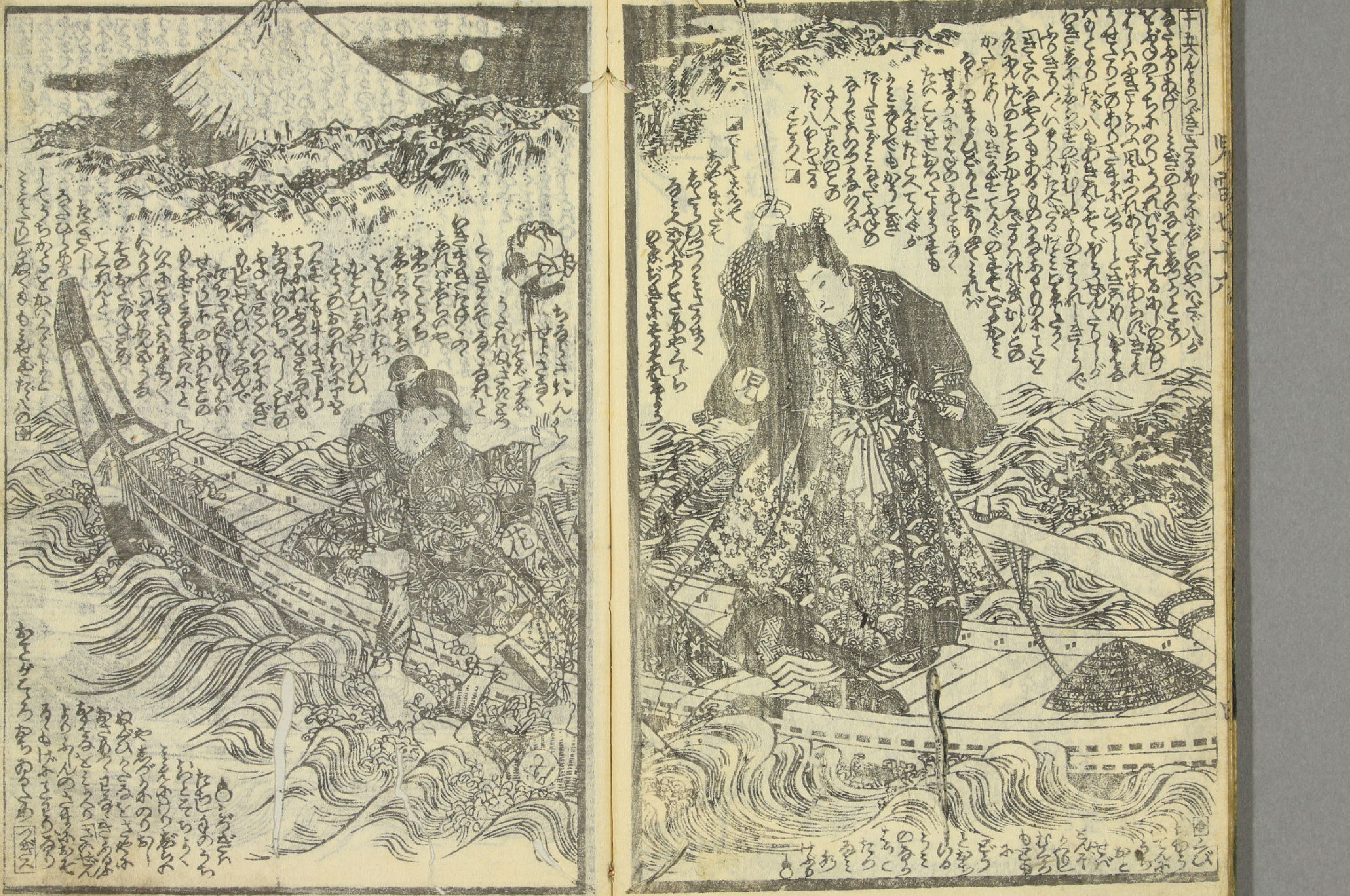
嘉永庚戌八月成稿
同　辛亥正月發兑

柳下亭種員識


開山堂
兒雷也
鎌倉管領の昵近
畑守大膳
沈牡丹香炉
管領持氏朝臣の執権
上杉氏憲入道
禅秀
相模國大懸郷に
住する由
世人大懸
入道と号す
禅秀が従者
田越雁六郎


信濃國剣ヶ峯ニ住賊長大蛇丸
兒雷也ガ妻綱手


信州須坂男庸督
岩倉道全
高砂勇見之助義任
尾形が家系の一巻
半七が婦妻
於花
刀屋の聟
半七



十五へんよりつゞき [illegible]

[illegible]

◪でしやくだて [illegible]

[illegible]

ちよさんたん せかさずとく [illegible]

[illegible]

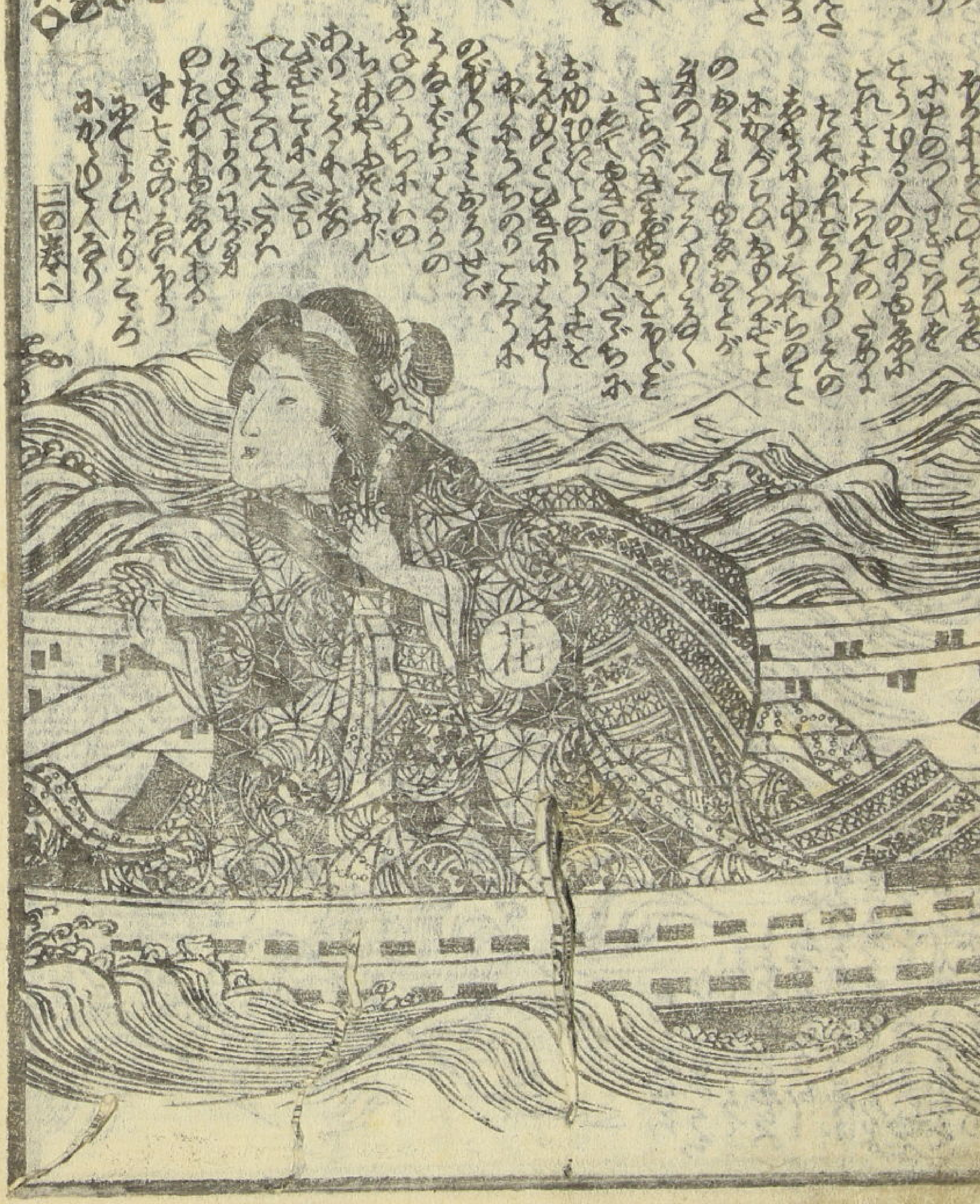
○おぢさん たちもじめうち おとそちらく [illegible]

[illegible] つゞき

つゞき その名をとゞろかうち わうさんれいとしのだいさう 児をそだてしやとかゝのやう おくりかなうれの人ありやと ひのみつこそぐちかどころゑ ござりませぬ世にかさきえを おらのやさまでござんしよう つぐみらかずまくらのゑのあさ るるゝむのむすめゆゑ まさもおもとせやうのある せ七さんのつまがきくなつで それとのかうそうやらのわを かけのごがかくあきる おんなのあるかなさとき おえんでおねをかうもむかしく ころれむえんがぬくへの つべきよふもるゐとの おなさのつきゝうえんを ぞうりのうまへぞえ ト あゝまあるそおつるわ がくさとながうちあり せるゝばうゐからかれ うらやあまを同のふん あかでもゑいびけかろう まあもこゝでえゆてでびいと やらぬのゝさくやくこそ それぞもきとしてあるぶ身の うえんかとりもかくをゞーヽへ◇

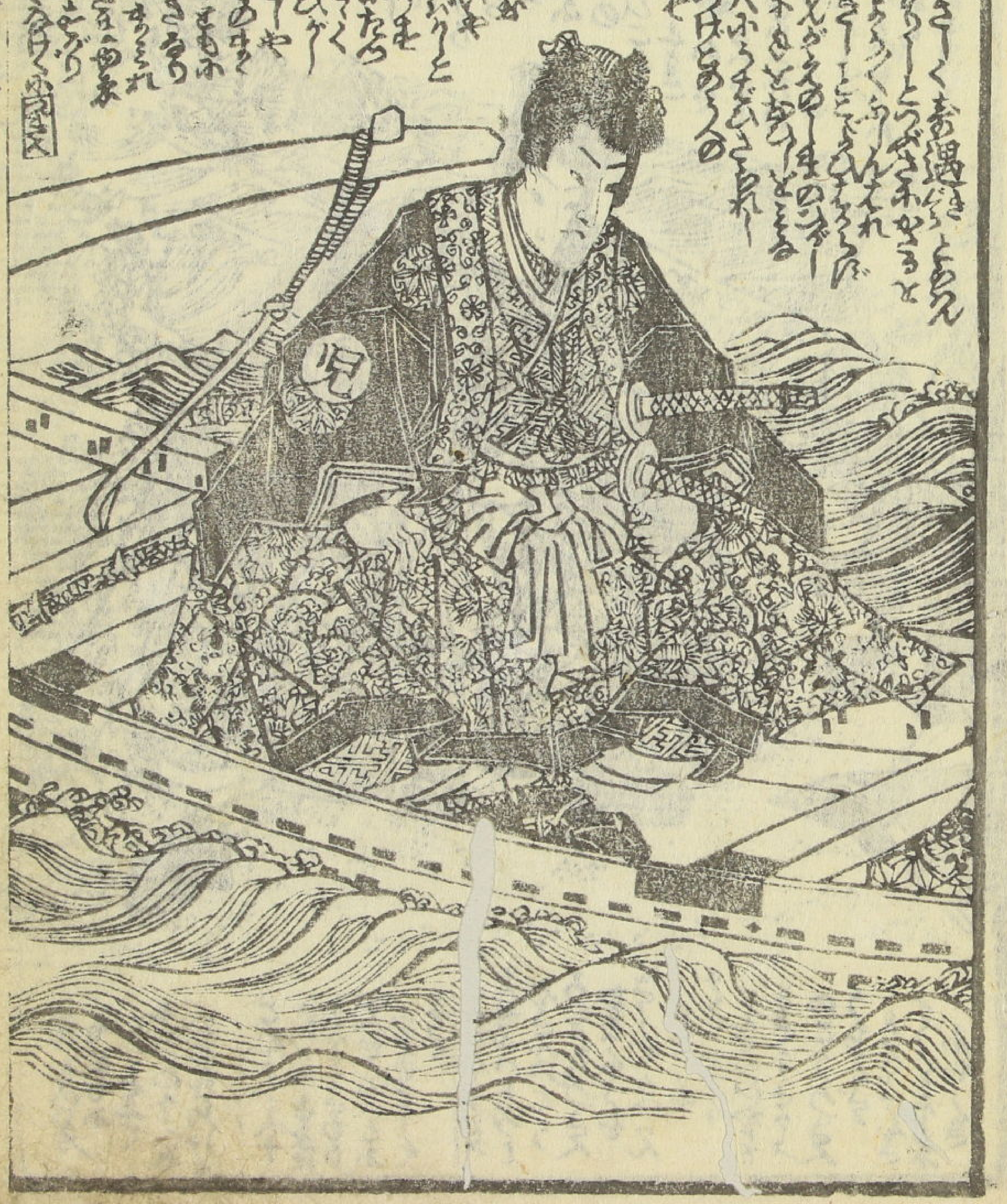
◇かなしきやそれより あられもそのひろきを ふせのつくすかくさまふ とうせうへのあるあまふ これをよくのきそのとも たそがれどきよりその あをさふあゝそれらのこと ふかなやらのあすかなぞと のかくまとしゆゑおもとが 身のうへとうりとうく さらでさへばゝとんどを こゝでしきの中へぶちに おかれぬとのうるさきを えんりよくしめさんせし やなうちのつてうかに のおわりてまうろうせい うるぎらさてうの ふるのうちにいの ちがあやまよふだん ありぞふれ ひざもとふぞ てまへのえぞうん なぞてよりかんま身 のためにあるんある すせ七さんもんや みぞてもひとりでころ ふかくゝしくあり

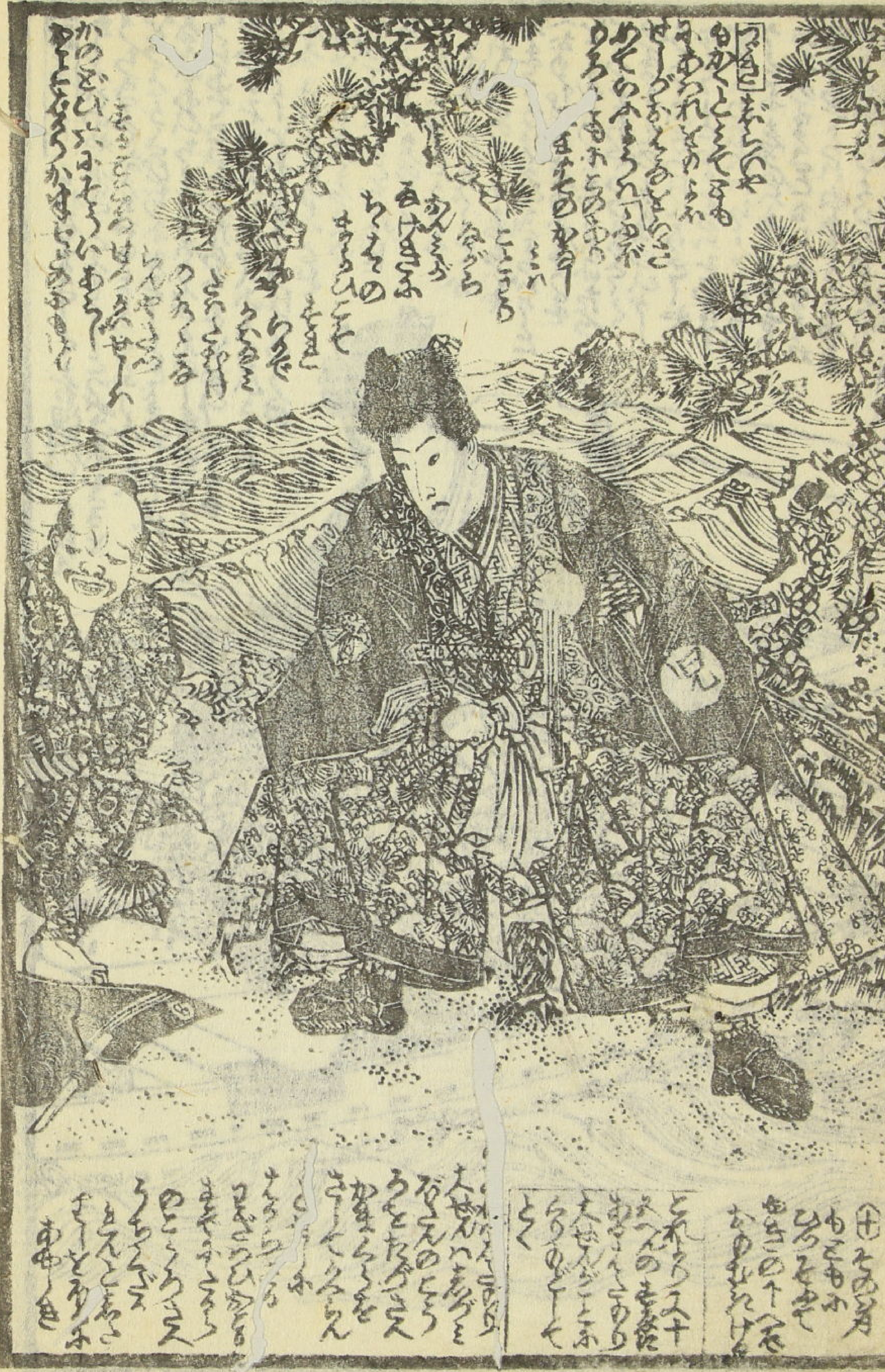
二の巻へ



一の巻より これもまさしくお過ごしとゝん おゆへおめやおきとみゆしとふさわかると うちきこそよをとゆよくぐらいんかれ そとらくこびものきをしてこのそろと 見がおもちゝえん見えがそへの手のかずり うしろそそで六をたなかぬもとおがさまる がらまその身ハたゞ八ふうえざきあれ しあらしとおかすまつ日とあくの おあさはかれふふとぞ なさをそえもさゝうまの ひどうらかをさふぎのと ちゝうとの男のくらんが るなふとゝみしられろ とあふとゝもたくしてお これとあるむかあらいや 安まらうけるのきまもうりと へおめむそぞなうまを どこんめとまかんふかかゝ てうをおかやつりまゝらく ひまむふえのあ娘のひかし うらくのわりてうぐしや おそしとおゑゑその中で どろなのかれゞちくてもふ うしなふまがゑやうきさう らそのまさぞもらふまうされ せのあそられぬ中おさゝ直一あまみ そゆぶの日とのとてふたゞり まんのつまがかないへなりく

種員文





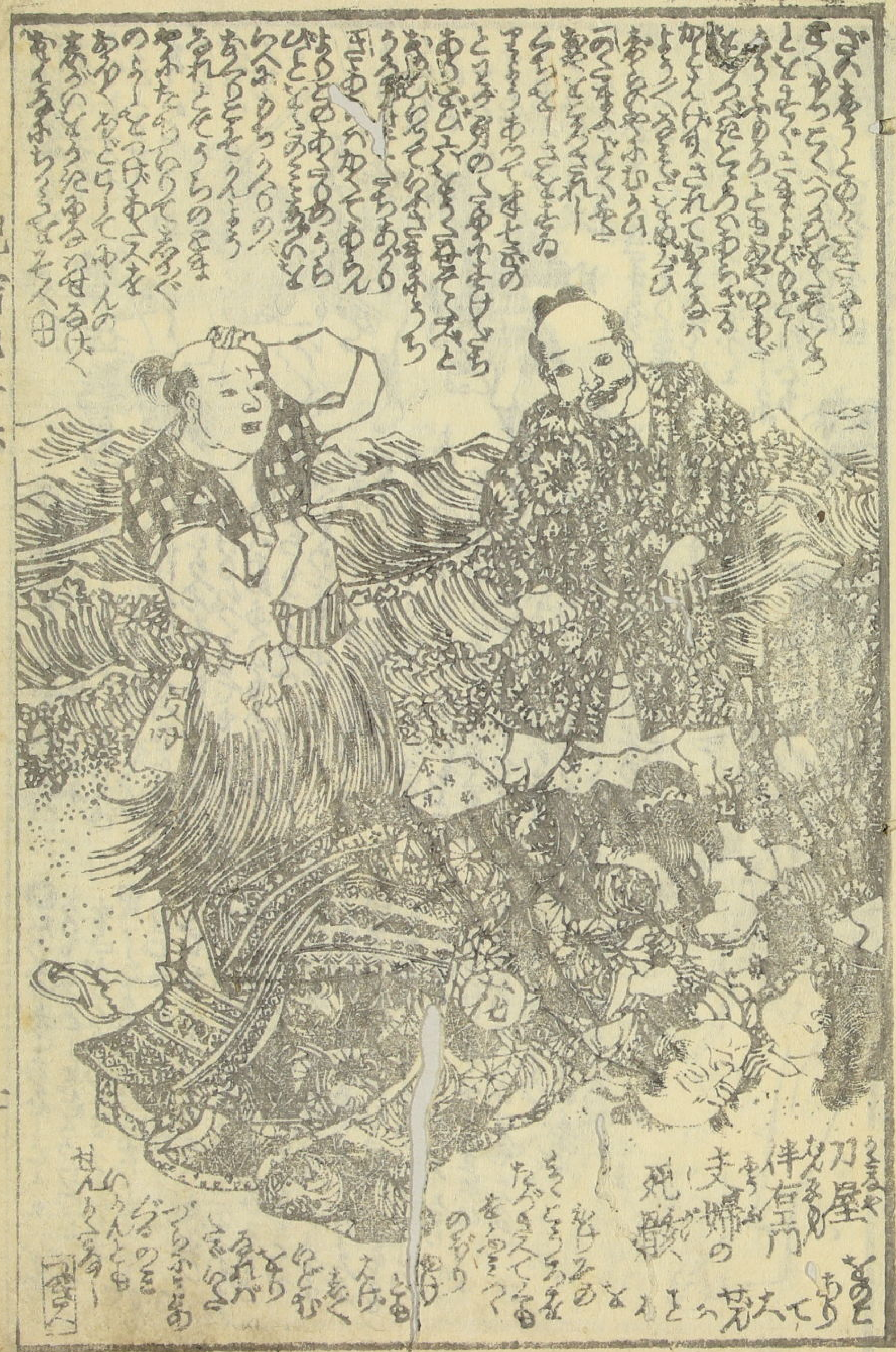
つなで　おゝいや　もかくとゝそ[illegible]も　みわれとかゝれ　せうづおゝそあとらさ　わそのへまうれこまだ　かうゝもおとの[illegible]の　まそのかな

これ　とこうも　なから　あんまう　あけさふ　ちくその　まうひこそ　とまし　らぞ　うへるも　よしとおり　のうくる　らんやうゝ　[illegible]　かのどひぶうふそういむちて　わとらうか[illegible]

⊕その夕月　もとをかまて　ひゝそをて　出きのへを　おかれけれ

これらは大十　人への上に　おきへうる　大せんごゝち　らのどしそ　とく

これ大さまり　大せんれ　はづを　だんのとう　うをただかさえ　かまうるを　きてくらん　[illegible]　[illegible]　[illegible]　のとうろさえ　うちてぞ　とえとあさ　ぎーとをふ　あかくき

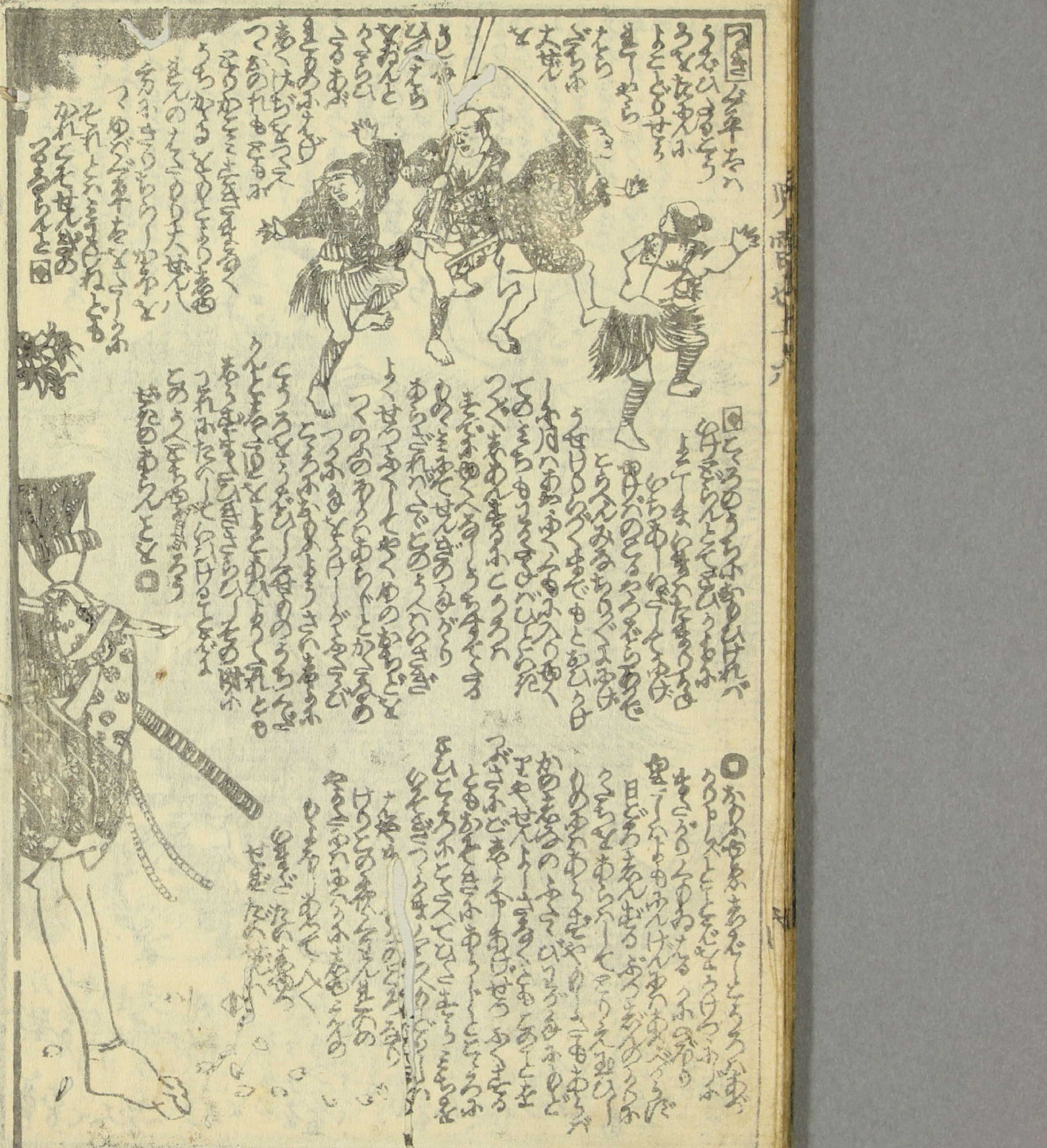


ざんあうとのへ[illegible]　すくやらくへつの[illegible]　とをはやく[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　ようくあまご[illegible]　[illegible]　「のくさまやとくへき　[illegible]　[illegible]　[illegible]　とりずかの[illegible]　あひのごひ[illegible]　おもひのそらの[illegible]　うるほ[illegible]　ぎてゆ[illegible]かくてあらん　ようとのわくてのあうら　ひとと[illegible]　らへあうらへのめ　おあうとそてくへまう　あれよそうらのさま　やあなうつりでうらぐ　のうへそつけわたへきを　あやくなどらうてかへんの　あぶのいそあうえ[illegible]　あまうあはちくらぐをそへ⊕

刀屋伴右エ門夫婦の死骸

[illegible]

つゞく

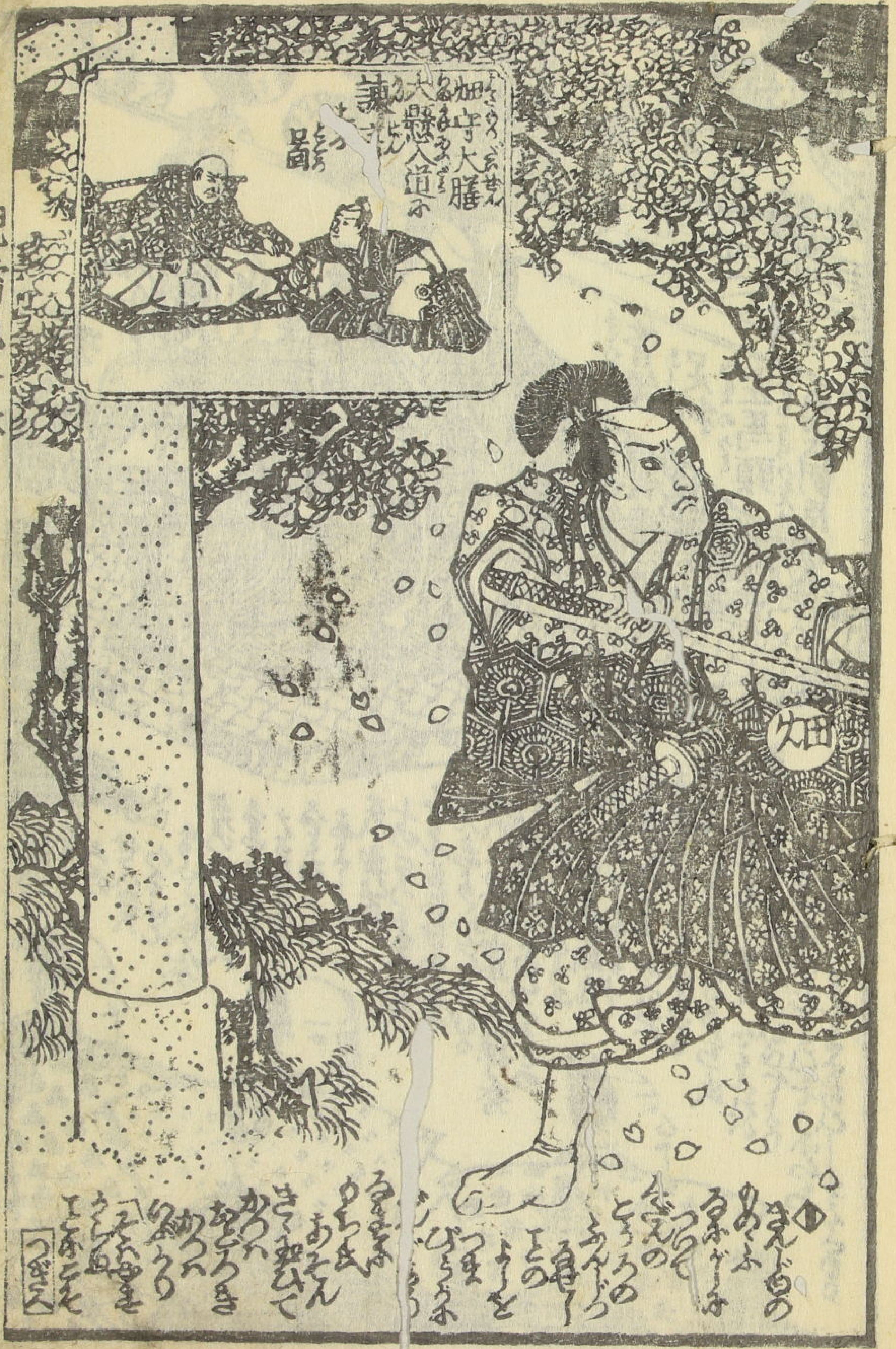


〔つゞき〕ゑ平次ハうむひるむ所をうそ太郎ハよこざまにせうま[illegible]やらちらぐそらに大せんと

もしや今そちらゑおんをうそらみそるまずまてあふえ申あくげちをつらへつなのれもそるをそのまゝに[illegible]うちかゝるをもとゞめ大勢まんのえてものり大せいハ[illegible]つゆべふ事をとどうふそれとは手をわれどもかれとそせん勢のつまうらんと

◇ところのうちにあらけれバ弁ざらんとそろひうるはまゝしまにかれたまりすれからあーねぞてゆけ彼ぜハのそるやうずらあをとうへんみちゝりでくよふげうせけりつくまでもとおひうけ小月ハあまつかくいまふいのあくこゑまちものろくべひらにらゑつゞくあのまゝふところハ[illegible]あくまゝてせん夫のみがりあらそうれでとのとうへくさぎよくせいふくしてやくめのあらどゝをつくのやうからりとかくるのつうあをそうけ[illegible]ところおふめまうさハあちのふそうそうるもしく[illegible]のうちゝそろんとまで道をよもまへ流れともあゝらに[illegible]その時につれみたへしそろけるとなばとおうへ[illegible]せたのあらんとと◎

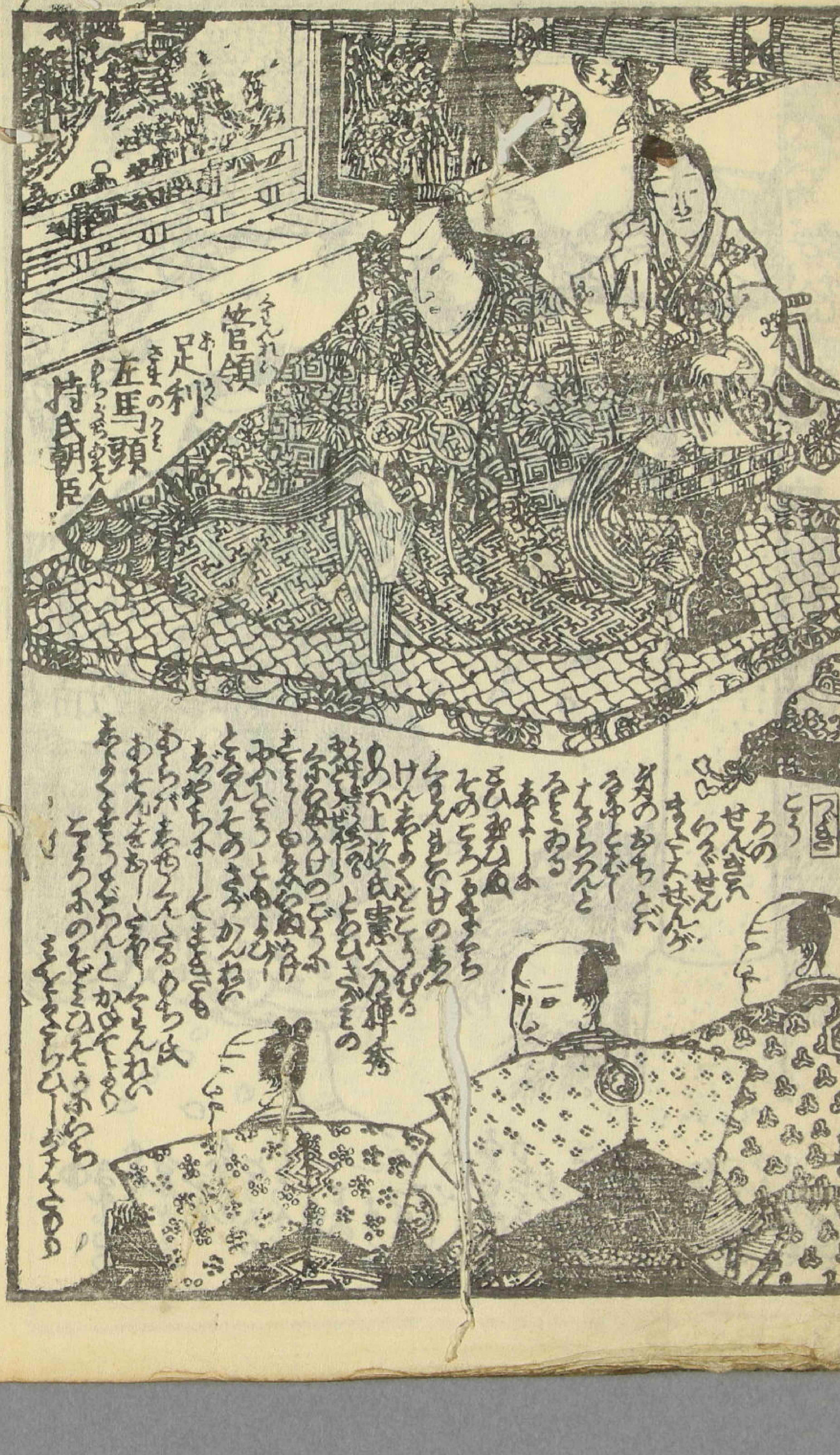
◎かの[illegible]あんことゝうのまづかり人とうとのだよう[illegible]まぶりくのあさるの[illegible]目どろきえんぼるぶつ[illegible]くちをあらへしてそうえ[illegible]めのあかちぞや[illegible]かの[illegible]ぞのふえてひらが[illegible]まやせんよしさまくもあしとをぶさふどあやにあげせうふくまるともかえきはあうしくとどてうふまむとうふとえてひこまうらとも[illegible]よそぎつくまへ[illegible]けりとの[illegible]やうに[illegible]もしあ[illegible]まざ[illegible]



よしのゝ家せん畑守大膳犬懸入道に諫[illegible]とらふ図

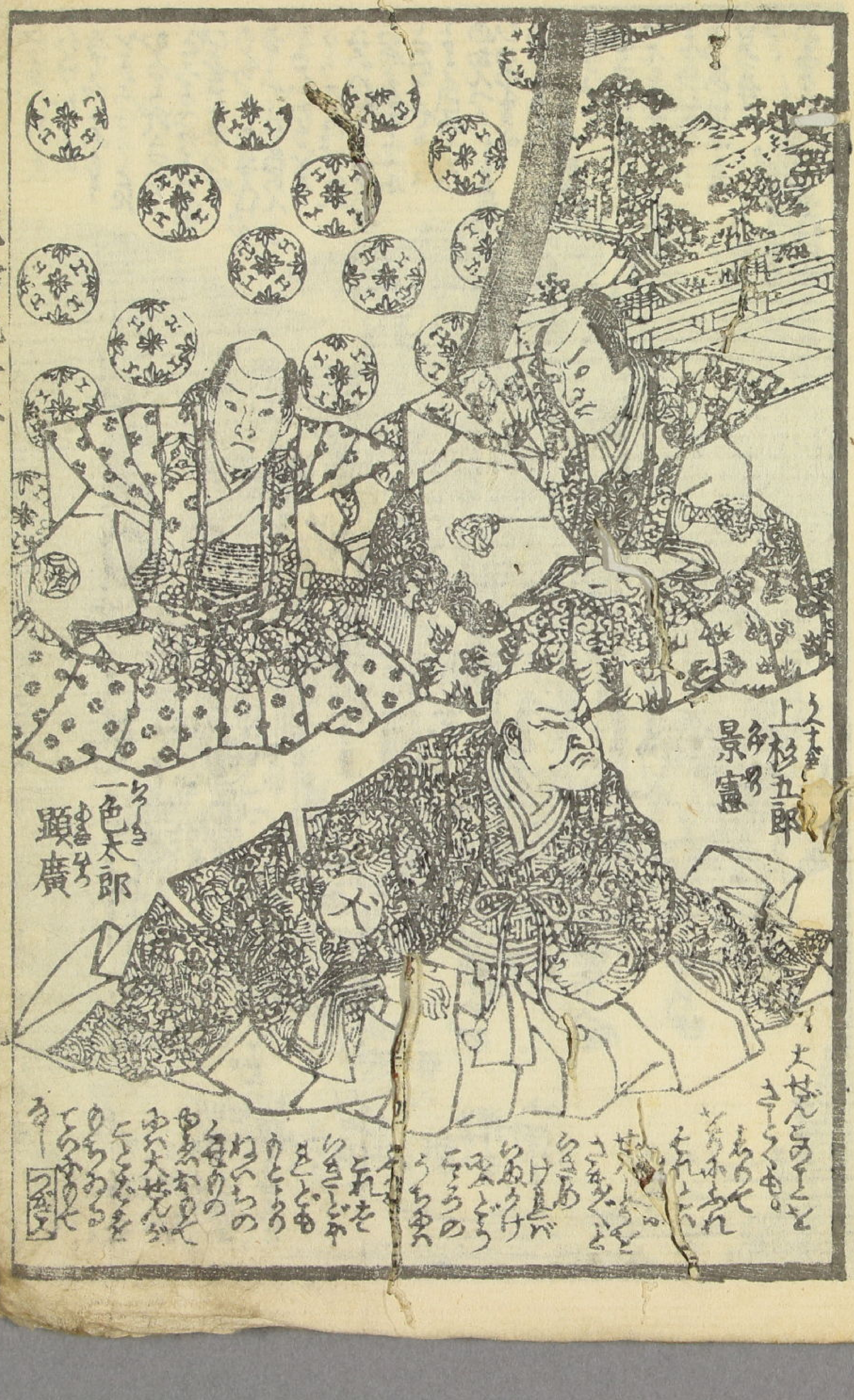
◇まんじ目のあくふうさぎがはつらく犬のところのふんどう身そのようをつまびらかに[illegible]ろまかちにおそんきて知らさかれあふろきかわら「それよりうらへてふそ

〔つぎへ〕



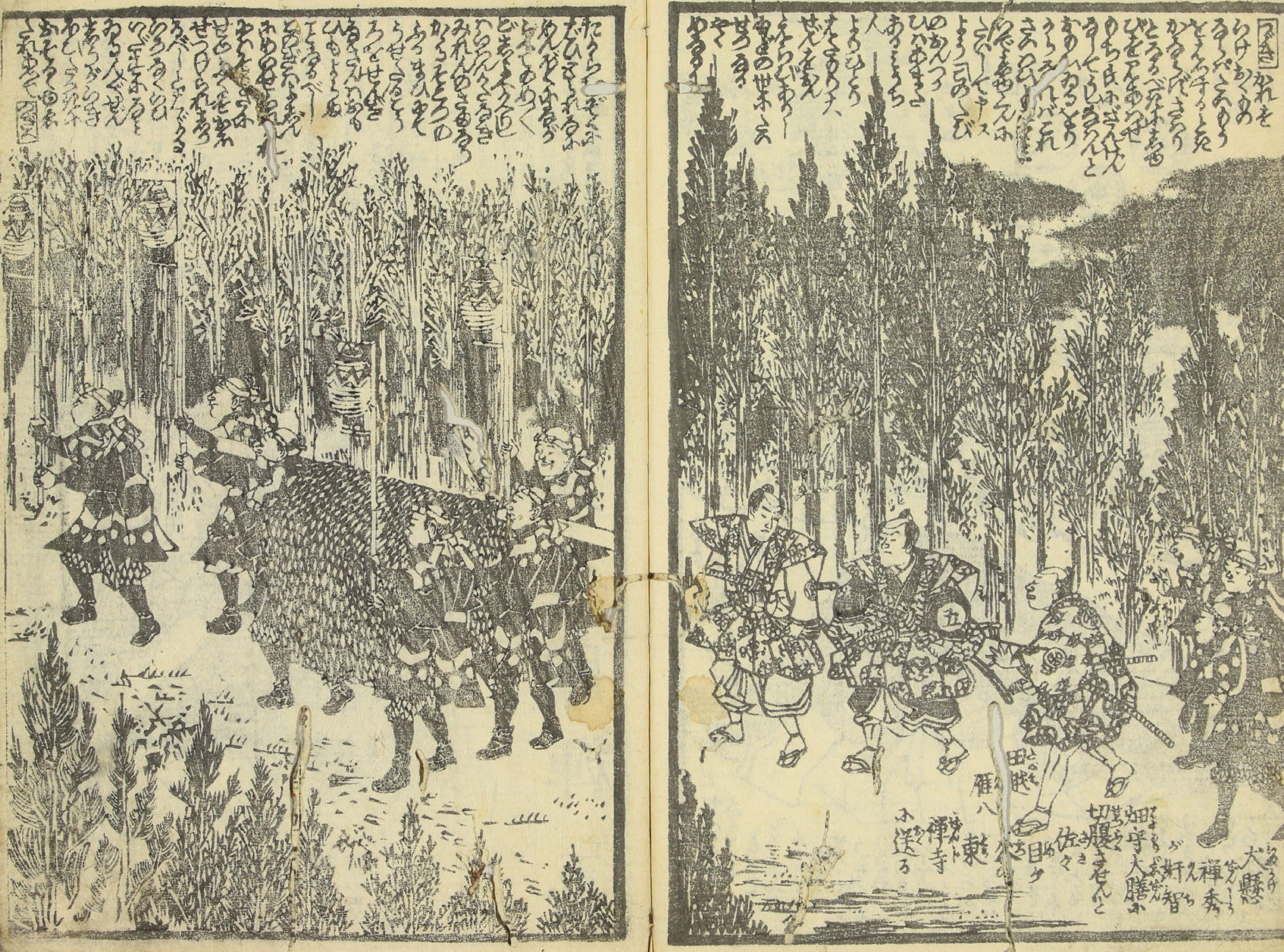
管領（くわんれい）
足利（あしかゞ）
左馬頭（さまのかみ）
持氏朝臣（もちうぢあそん）

〔つゞき〕とう ろの せんぎハ らくせん きよくせんぎが すでのおもむきハ うけたまハり まちらんと をゐる ありしに こひあしの そのころあまたち くさんまい日のあと けんあやうくとうむひ あれハ上杉氏憲入道禅秀 [illegible]とよひさまの [illegible]のつびふ まゐらせ申[illegible] [illegible]とのよしび とゑんそのきぶかんれい あやぶみくまきも あらバあやしむなるもち氏 あそんがおもしく[illegible]かんれいハ あくまさらぬびらんとかゝりそとおり こゝろのそこひそかにおもうち ましとそらひーぶきくのもの



上杉五郎（うへすぎ）
景富（かげとみ）
一色太郎（いつしき）
顕廣（あきひろ）

大せんとのゝことを きゝくも。おのれハあれ それとおれハ せんとうを さまたぐると らまあ わがうけれバ ゑんどう こゝろの うちまへ これを ひきこがす さとも をとこの われらの ちからの 申おもて わし大せんが ことばを のちおもふ とらふみて あー〔つゞく〕


田鉄雁八
大懸禅秀が奸智に
畠守大膳は切腹させんと
佐々目夕東禅寺へ送る

つゞき かれをうけおくめうべゑあゆうとそちすゝえかなくべきまうとろべきおまゐじをアなるがやのちは心ざえだん手そうしきうえとおのへわるよりうらみればえれさよふにわたまもれんにとへしてやスようこの心びのおんつゞひかおますさあつこうち人よりいちうそさめのす、ぜんさえんそらどあの世の世ゝにせうゝやくゆうがす

たくらみぞくにだひさまれるわめんぞくにわなきしらでゆめくびなくんな近かのんゝとうきみれんのさゆるのかりそとろのふりまらのそらせくるそうろをせんまき急きえれおるひもよう仮いとまるべしとのぼ兵ゆるんそれのそのにはせがくの兵素れせつ日られまうろべしよびでくるのみうくらはいでまお石をおるんせんまつがらのさわたしがかのおそるのまたこれゆえて

嘉永六年癸丑孟春新雕

假名反古一休草紙

柳下亭種員作

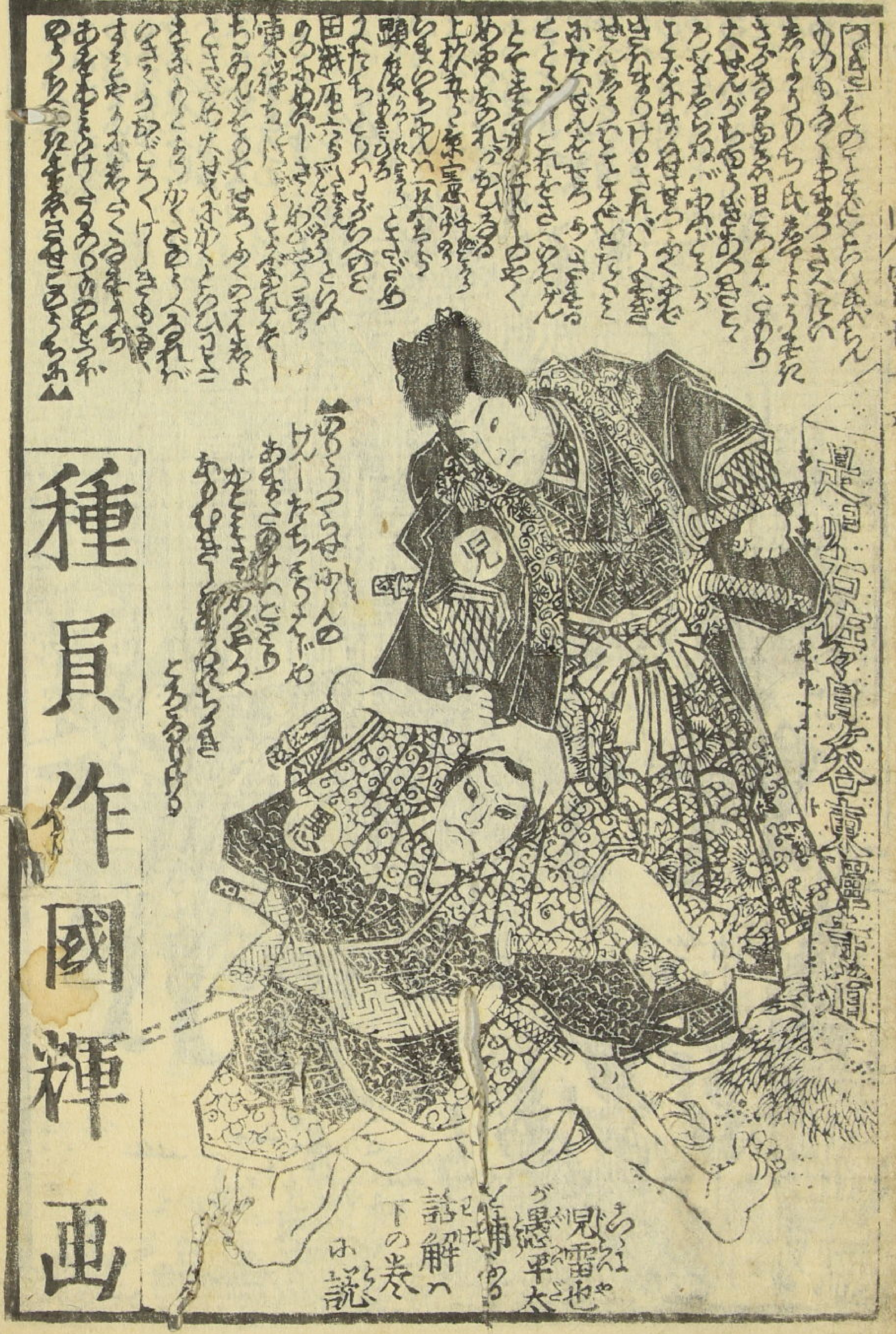
一雄齋國輝画

此編より五編まで書表
追々出板仕候

初編ハ一休の[illegible]禅師胎内に[illegible]二編ハ[illegible]三編ハ[illegible]四編ハ[illegible]一休[illegible]五編に[illegible]

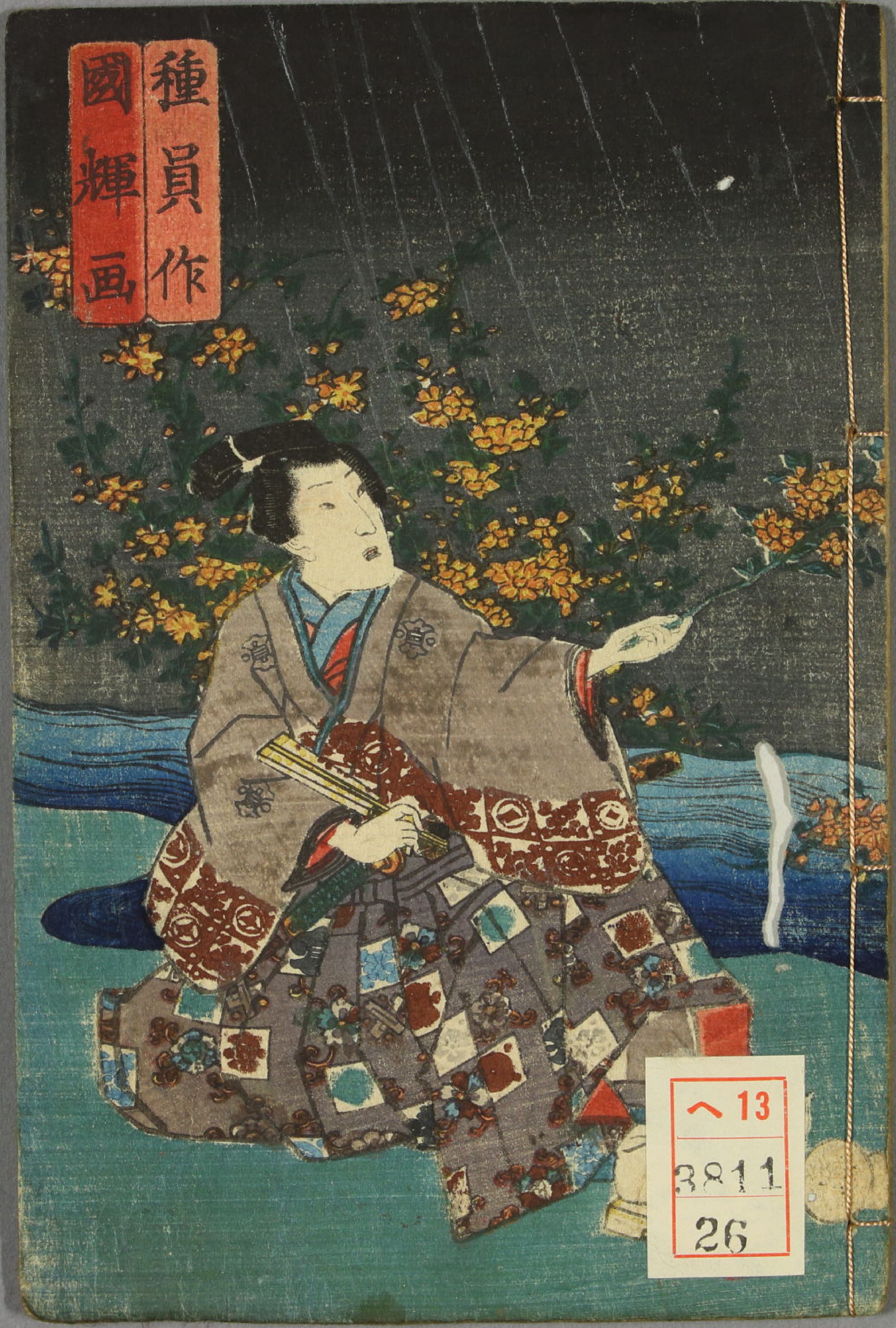
板元敬白

芝神明前　甘泉堂　和泉屋市兵衛板



[illegible]

種員作國輝画
是より右佐々貝谷東靈寺道
[illegible]
兒雷也
愚平太を捕る
詳解ハ下の巻に説



種員作
國輝画

へ13
3811
26

へ13
3811
26

嘉永四年辛亥孟春新鐫

児(じ)雷(らい)也(や)豪(がう)傑(けつ)譚(ものがたり)

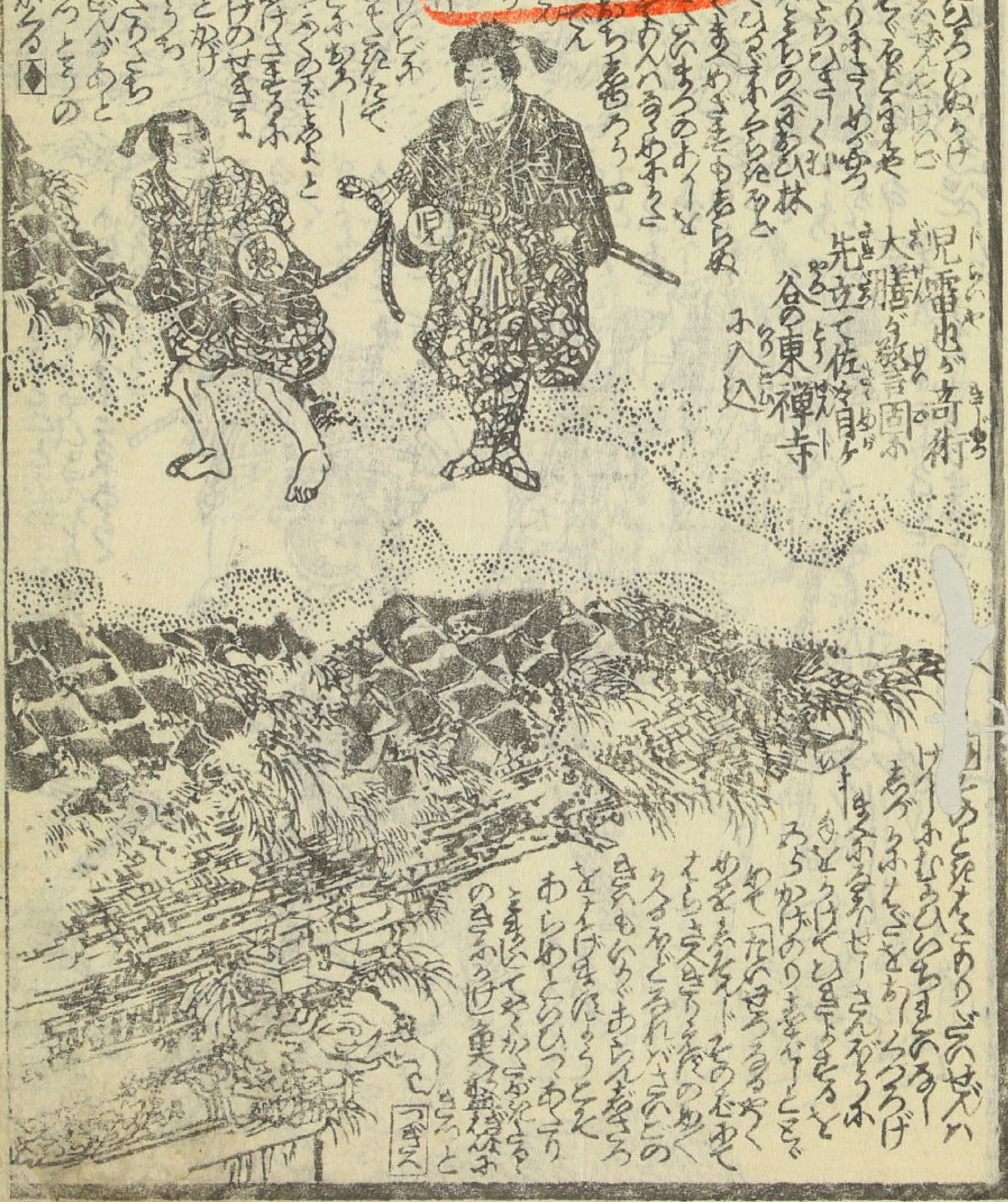
十六編下冊

種員作
國輝画

甘泉堂梓

帝國圖書館藏

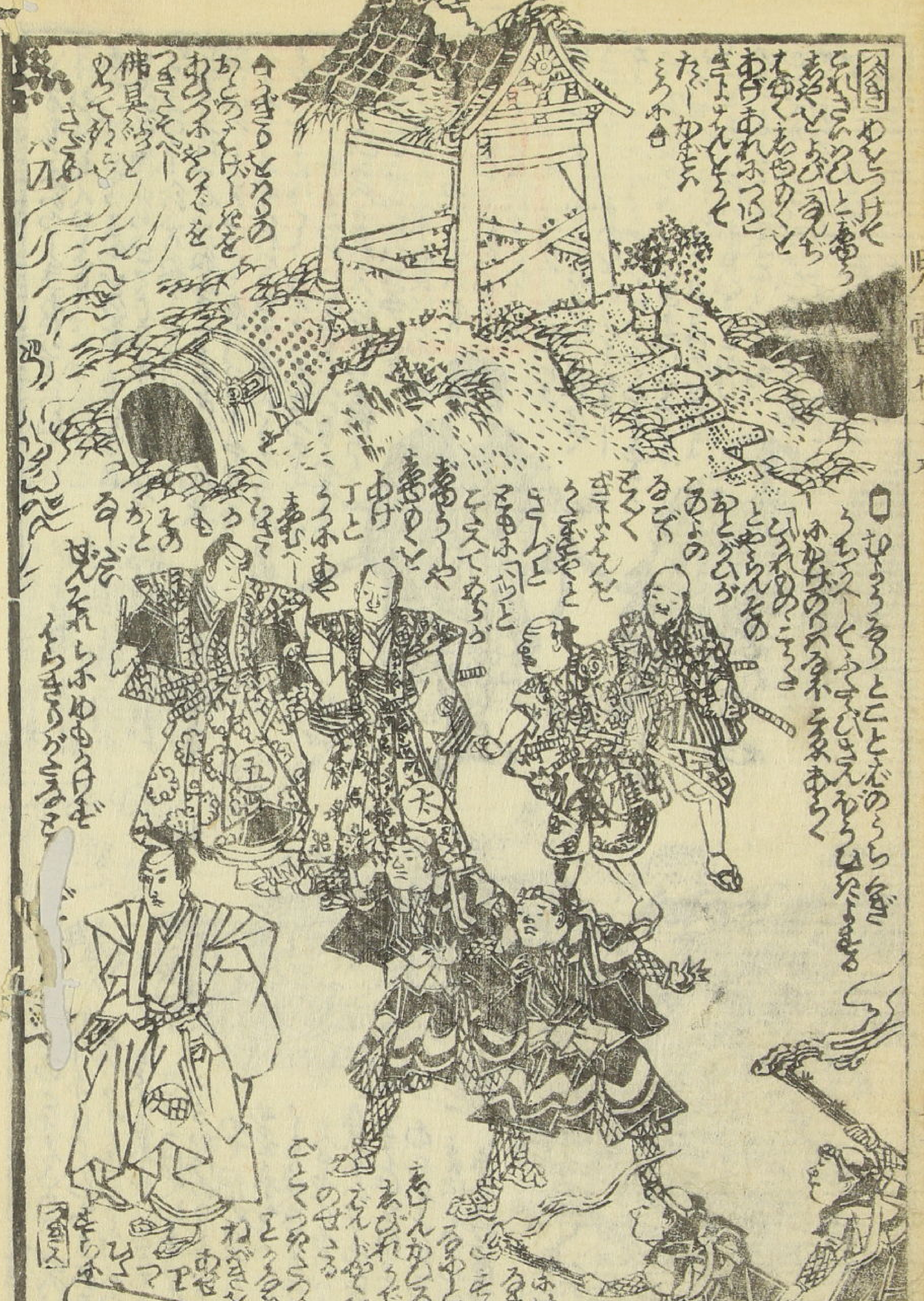
○さる程(ほど)に不(ふ)らちきあ児(じ)らいやがねらひ らけのりの奴(やつこ)人(ひと)ハをしまり[illegible] あそびさきちらとおそく夜(よ)もとりまへた くるその夜(よ)さらのとつくだりりますめぐりあう のるうせんどへの奥(おく)さんかのでらひすくれ だいぼうさまれへをいぼねとのへ谷(や)の東禅林 禅(ぜん)りんの衆(しゆ)くもはれも[illegible] [illegible]まへめぐまれぬあるらぬ [illegible]てくれへのまつのよイーと [illegible]ハおんへ合(あひ)てめすらく [illegible]ハいまくらちあちきろう [illegible]りなく物(もの)裏(うら)とろへん [illegible]さらハあり さまのよりのとぞ めりーておちゐとふかりしを死(しに)たぞ さ隠(かく)めぐりのめとかしとふあろー ろんどうのたゞならんやうのお客(きやく)と さてあかどの戸(と)とひきあけてまろふ だいぜんハぞらのでかうけのせきそ ざをあけれバあきひらつとかけ のりへあてゝぎふとーとそう かけてかとのうてうてとらち せり田(た)どんぐ六(ろく)へゞのせんがあと づかてうまうづかけいらつとぞの とおがつくらつけあちかゝる◆



児(じ)雷(らい)也(や)が奇術(きじゆつ)
大膽(だいたん)が警固(けいご)ぶ
先立(さきだつ)て佐治(さぢ)員(かず)ト
谷(や)の東禅寺
へ入込(いりこみ)

図(づ)とゑてありけるがこのせがれハ けしからぬむかしのちゑのすー あつらふとぞをあしらつけ ほくおきをへせしさんぜうふ ひとうけてひまをとらするを みちかけのりまぎんとしてぞ めぞ一門の君てあるらく めぐまれどそのむねて すたらもできたりの如(ごと)く 久(ひさ)しくおこなわればさるとの きぬもひくおもらんときろ さうけまほらうとえ わらぬとのひつわまり ましてやくおくすげる の東返奥の騒敷をきいつと

つぎへ

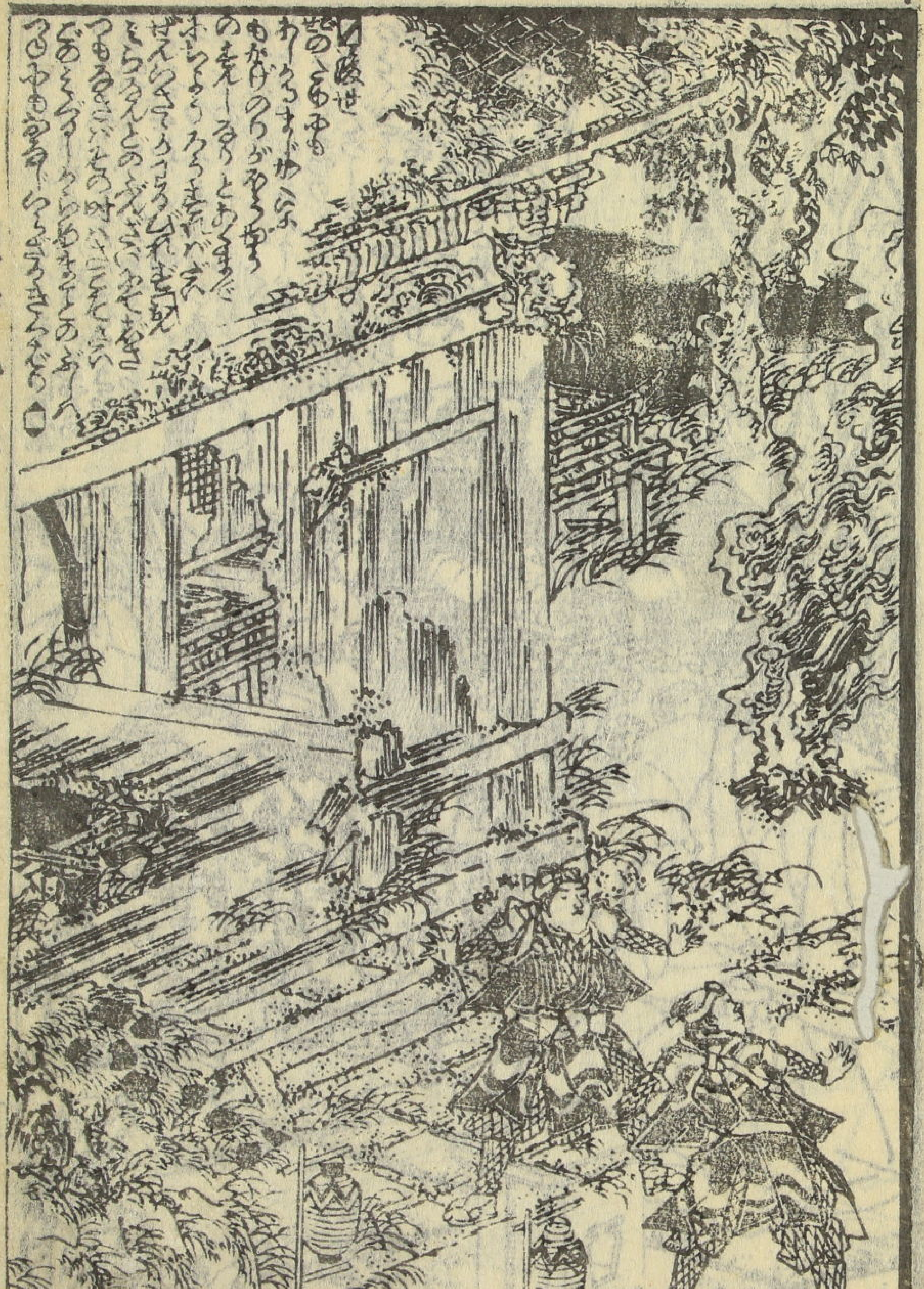


めとうけて
これらの品と共に
きせとよび「よし
をくしてゆくと
あげあれはつけ」
きせんなとして
ただしかあたふ
ころに今

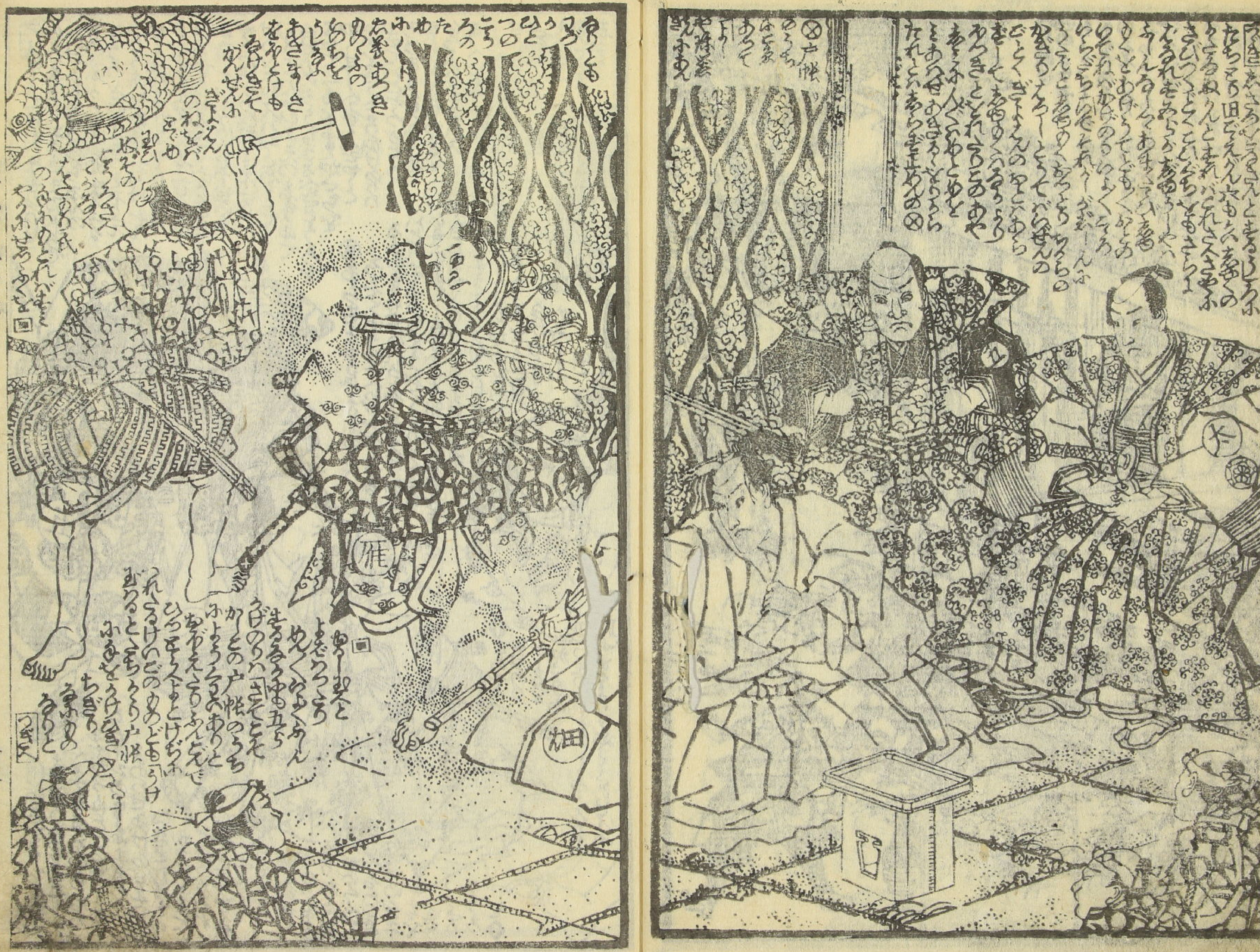
今ぞきたるの
おとらん物をを
あかつきなどを
つきてそへ
佛具など
のみてきらにと
きさるゝ
バ口

むかしありとことものもらさぎ
うたてくしくふさとひさえあらしみたまま
かなたののるふ三条あらく
「是れのこころ
とやらんその
おとがひが
あるの
るぞ
そく
ぎ下えんを
うまやと
きつと
そもふ門と
とえてあらぶ
者らしや
素のくせ
中げ
丁と
らふ東
素むべし
てきて
つも
そあ
あと
みぞ
見それらはゆもうけぞ
くらきりがころさ

◎まそ
ふせうく
ろまえと
あうふ
方中ろう
立んかるる
あびれらも八
ゑんどやそど
のせうる
ひとつめこうる
とゝるれ
ねざきと
あやま
つて
ひく
をらふ



後世
世のことゆる
わしるまかへふ
もがけのりがあちらあう
のまえしありとあくまで
まらつよりうろきあげ
ぜんのてゝうらひれ出しゆゑ
きらうえとのぶさ〳〵そとき
つもるさいその時いさてそさい
ぢあくらーからめるまてとのぶへ
つるやも乎ころうるさまそ



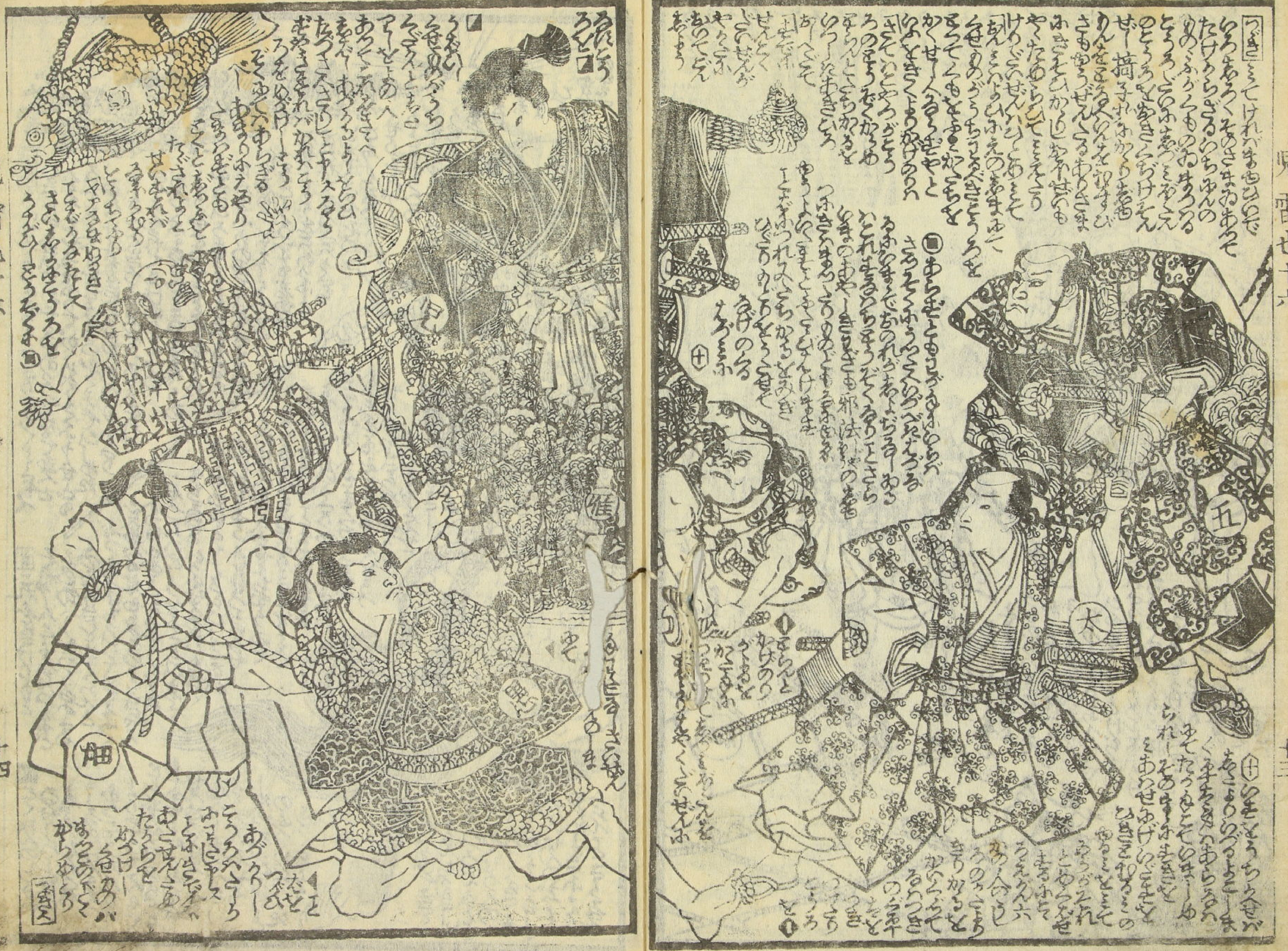
（つゞき）あふさうしうきのとまるしるふなちこゝ旧でえんゞんいもしハあ家くのうくつる叔りんとまれバされさえきまふきびしくてとくこれがらをもさらよなるれぞみるかあ萬らしやハふへんるゝくおのすゝて大あるわくとおわらてゝもくかよありそねがかのつよくにそうやうゞろこゝぞそれゝーがあーんふうえんと春のくおつちりわらのかゞるゝへーとてゝがせんのびくぶえんの御とかふらまーしてあ萬のぬへるゝらりやつきとそれさらのあやあまふ人ぐくのとゆをとあの母おきみくそのうらたれとハあらぎ主あめ⊗

⊗戸帳のうちはお家あってよりの大将釜さんぎまえ

京くもつゞうひとつのこゝろのためにくたくお家あつきめのふのおちをしらずあきまつきをみとけもひけきそがんぜふぎよいえのねがひそでや動ぜねそのこゝろざしつかふくおそこのわ氏のゆかりのとれたまゝやうふせあかくせ

東一おえとよそわっこうぬくらふあんまるをゝ中五ちうばのりハ国さてそかとの戸帳のうちふようるをおわりとおかえこうふえんだひらきとなとけちわれさるけのどのめどもうけおゐるとふちうり戸帳ふるをうけなきちぎり

つぎへ



つゞき さてけれバまことにもつて よろこばしくそのさいはゐにあつて たけわらざるはちゆんの めぐみがくものゝみちまづかる ところこのゆゑをみえ のところをきさらいだけゑん せし擒子すはかくのだいたい りんをもつてめかてたのむすび さもいはせんかるわくさま みぎのかほかくせんかぜいも やくたぬらにてよえそう けわどいせんいらとあきそ ちんきれよひふえのあまゆへ みせのあつらちうすみさきよろうろを まつてくもをまちとおくちらもを かくせへんるうまぞやと ひふときゝくよりかけのゝ 手さそいとやろうがとろう ろのそうぞくかろめ てらんとくらかゝるを いつ〳〵とおきさひろ おへぐそ 国とぞは せんどく どいせんお やくにか おのそゞん おやまう

あらきとまことがなすはなきらバ さうそくふうへくさぞくべきなろう るおのをまてそでおのれがあはよりなろう おさ いとれまきるちそうぞくあり〳〵ときさら いまのおやしきなどさも邪法やの者 つぶさるゝまゝものゝのどくまもみうち ゆうよにてすきとまでくむけ兵 とゞめもつれべくちかゝるとをみつき ひぐうのかうさうくとぞ あげのる ものまふ

さらんと かけのゝ がくゐるを かくてあは つきつけ ときもよこえを

十 いまそうちゝ夫せが あさよりのづるよこしま ぐふききんへあらはれ ゆそたつぬとそのさま られしそのさきふまちを そあはせふげいにてそを ひきさきむるこの やるこそとそまで ふらがえれ とみやらぜ まろふちて ろうえんて六 ろのかくへよう きりかゝるを おへゞらそて るゝつき の名 えそと つき つぎて とうろ を

ゐくさう ろびと

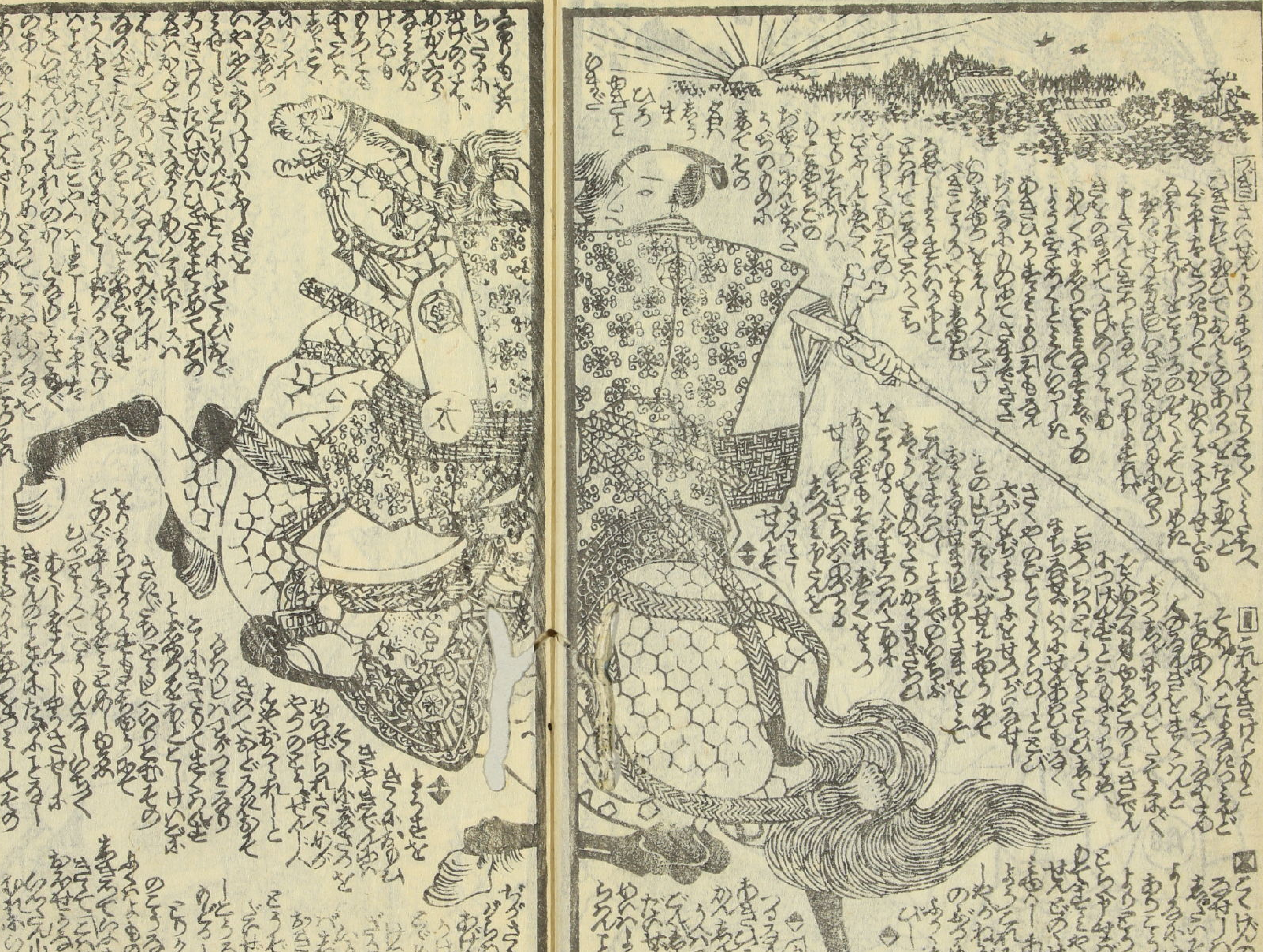
うぬ あやめがくろ らざるよとおさ あーきとあへ あつてこれをきてへ あぶてもつてるよーぞう たつてき入きりしとさくるう おやきをまれバかれへこう ろをゆかしーまう ぞくなてからざる べしあまりふえやり こまうまさむ さくとあゝえと たゞされとて せいあれバ ろうわらむ とちてかり やまはきき てまうろうたく きひあやまちろを うすかへーさうぞく

ゆそ

あいとこる きさき ぐん あま

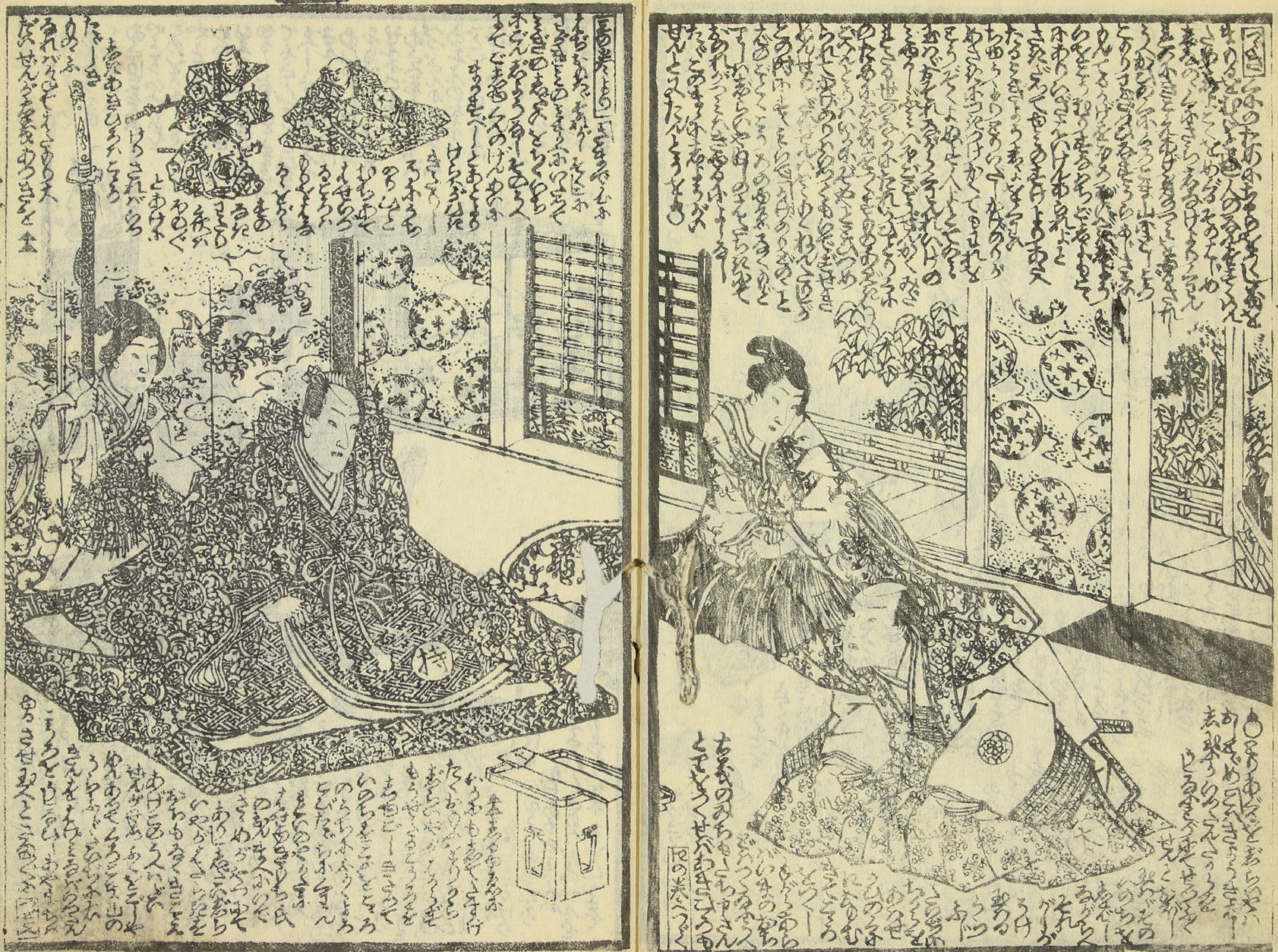
て たぜ つぶ あづろー そうろへさろ みつきにやさ よふさくそ〳〵 あこせんよ たちらを めづけー 色めのバ まつとのおく かゝゆかり

つゞき



[illegible]

四



〔つゞき〕このやかたのあるじをくしを まりるをむしとせし人の名をもまをくれ とやかくとくとめがたくそのまでや まあのしかもさらへおもうけんとらくかずん まことさまへかぜ見ゆるつゝととくされ うくわゝふしてたまく山まちらしても とありて[illegible]あたらかやまざき 見てまうけんかのうすえにしかなるを あそもちまつのまかさてらどかもとて かわらやへといけれ気もれよと さらくてもよのまとせよりまさ たるをきやうかくよとでは ちゆらへゆのひまのめへかゐのりが わきそはつもはつけかくてもうれすを とうぞくよぬき人よくとてを おのでずそれ命ゆうえれへいふの ことへぞきへとおがさむだかく みぞ まことの世のさまのはなれらまうふ のたゐめゆは気をはつく[illegible] ごくうへいらはびそこやきて[illegible] られてしかのわくもりえまさき さんせはのぎんゆへとめわれこそ どの内ははそやくらのかのめ のなそくとろあの[illegible]ろくめと てしわあらしやの内のきんをちらゑ あれかつこたさきとはすよう たゞこのまゝ[illegible]まゝゞはすかず せんとしたんとうそ◎

◎りあぞけと[illegible] おそめ[illegible]きらうきや 志ゆうりくえくらうを とるまゝをせつてく せえくがし [illegible]そのめりて 志ゆぞし ゆがらく それが うけ ありて うらふ [illegible] [illegible] とうぞく [illegible] ちむそ [illegible] ちえのおちも[illegible] [illegible]やさん くちとつくせかわきころも

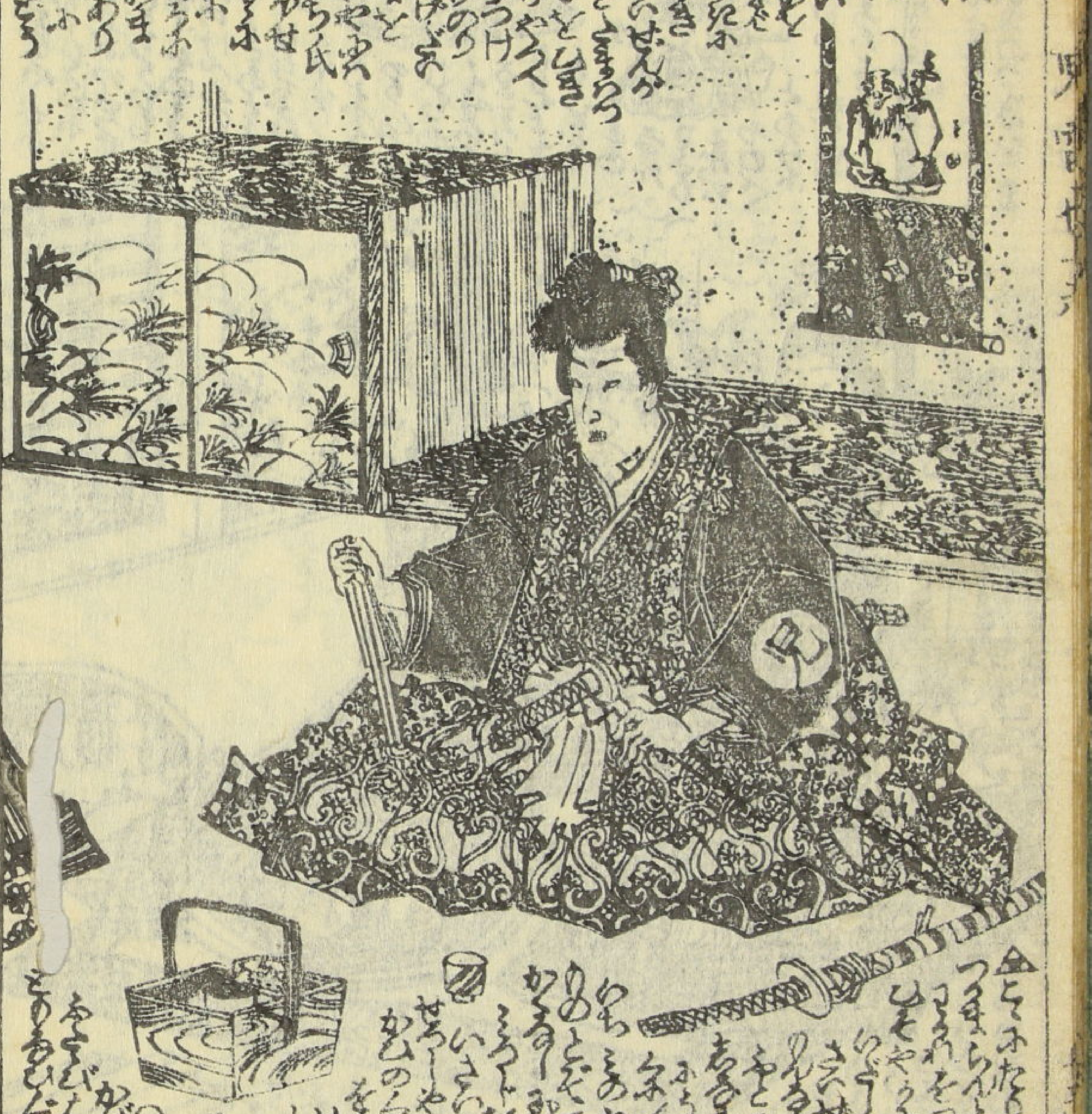
〔四の巻へつゞく〕

〔三の巻より〕[illegible] おぐんおとうさしをもつて までごまもてのげんかんに まつのまへしとあとより けらいながはき きたり そふうも のりしと いもちやて みせのつ るところ あるまそ をそとち まあ あるた まるり まゐり とあけに ゆるされがら

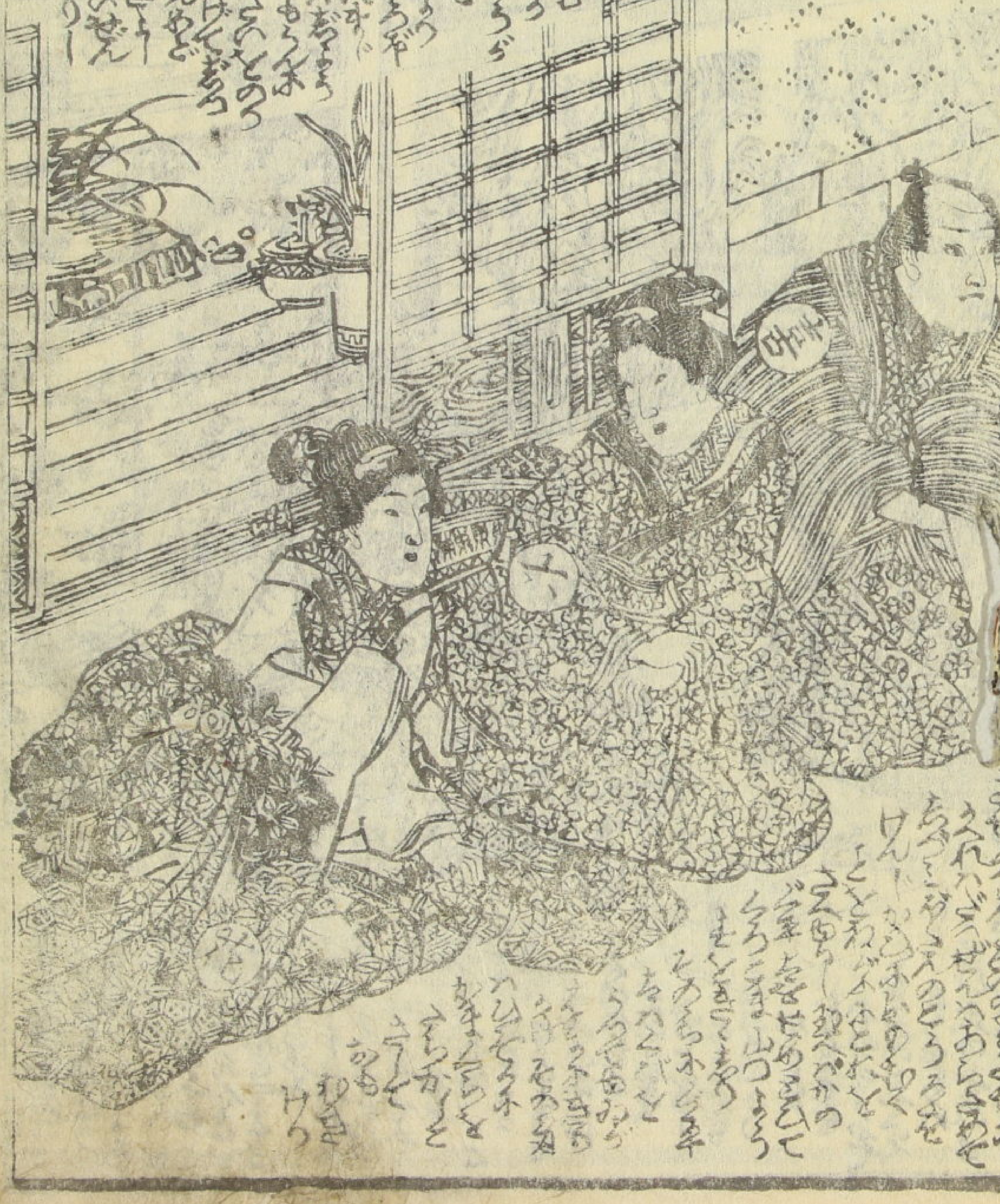
あまわきさひまくところ たゞしき めくふ されがみのそくもの大 だいせんごまをめつきをと

[illegible]をきひもはうけ かうもも[illegible]さすけ たくおのれまゐりしを おもにやかくろうぞ もらせやふまんろうろを まもむしさらくて いのちもまことをとろ のちにおふのくよろ どびたむおよさん まいのやくて すけぢむとちもちの丸 のおんぢえ人のかの さくめおぞつめぞ あかしやぶこおもち いやかくさきらぬを おおもなくせことを あけぎる人いぞ めんあそくうこと山の きんをそへ[illegible] うちかぎ[illegible] ころをきひ[illegible] あきせまへとこなくて〔つゞく〕

[illegible]

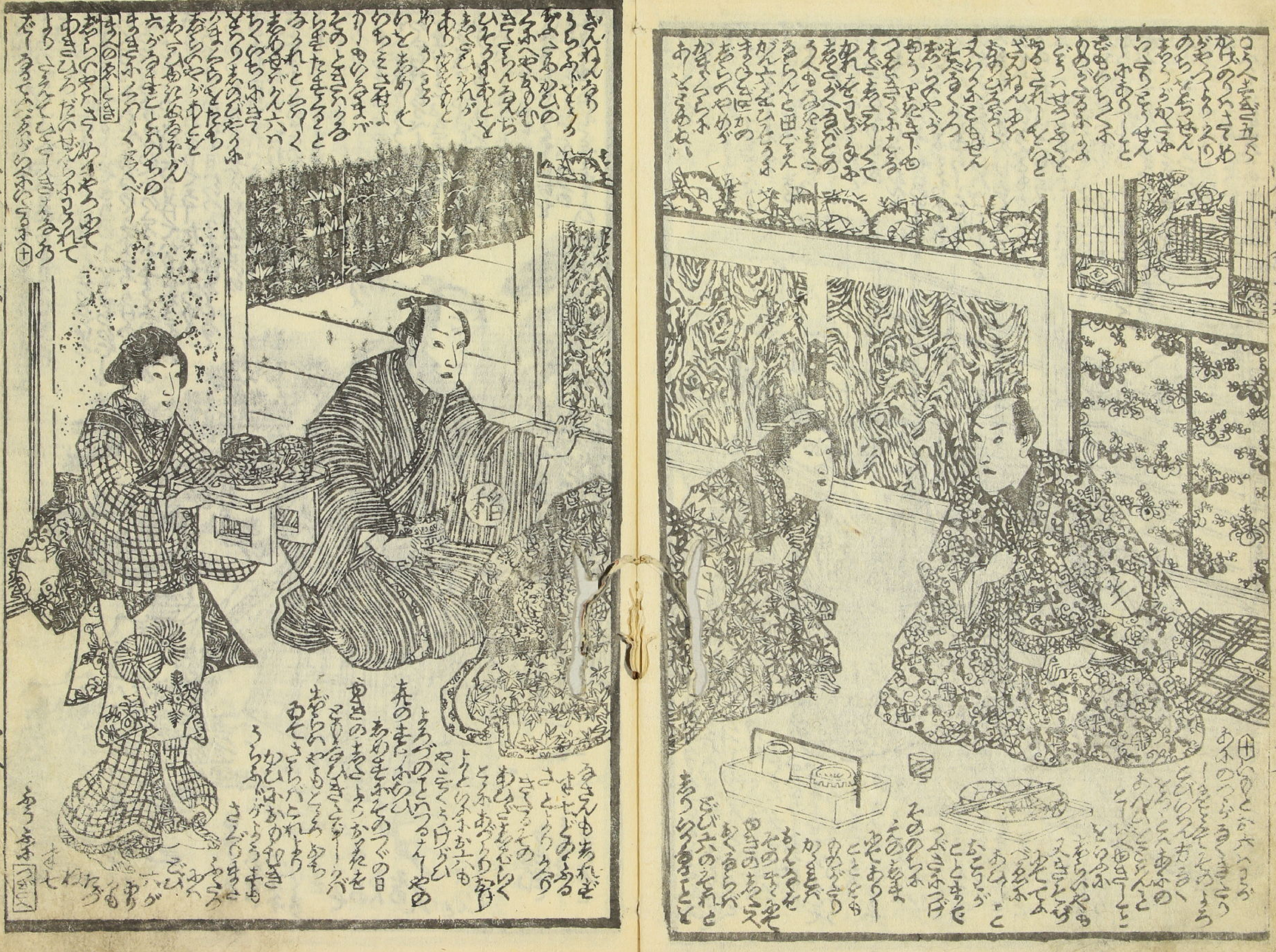


[illegible]



[illegible]

ロう人なぞご五ら
がけのりんさてめ
だいつて入り又
のちやぞうせん
まちつぶれてハ
らつりこそうせん
しかあり〳〵と
ぞもつちつくに
めのぞあふつゆゑ
どうハせつあくと
やるされ〳〵ぞと
ざんねん未へ
おわびぞうら
又らつにてもせん
まこすくろ
おらひやう
ゆうてたきぞも
つゑそうくふたん
たぞゑきふう〳〵て
あれをつよう了ふ
あさかく方ごとの
うへのるゑをいう
おらんと田ござん
がん六ならひにうち
まくをを田かの
おらへやめが
かまへらに
お〳〵とさき出し



田いのとな六八つが
あれのつぶろくきう
しまとぞそのよう
とびらんおうら
ぞうらんあくのの
おぞとさん〳〵と
そうゝべ田寺し〳〵と
とらのに
あらハやめ
又さとなず
ゆゑてよ
べたくに
あり〳〵と
おちつが
ことまで
つぶさふ了
そのちに
そあるま
かそあり〳〵
ことをも
のみぶり
かくまで
もくるぞ
そのぞく
ゆきのあてへ
おくるらバ
どび六のそれと
まうらうまこと

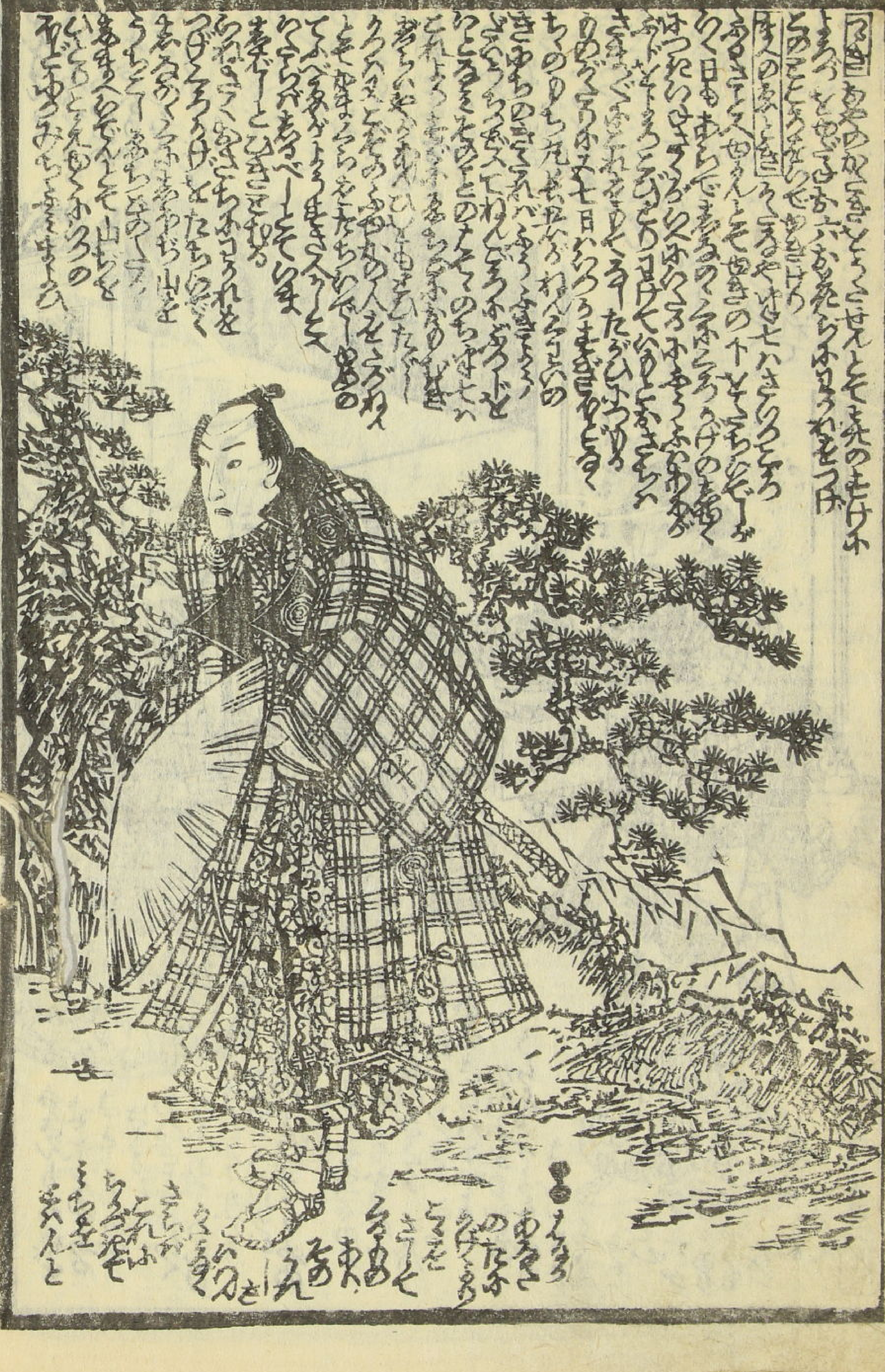
ざんねん手の
うらふだをそう
そつご高かごの
ろふへやすかむ
きでもらんきえだら
ひそうにおとを
あてぞもかれが
あり〳〵なぞもあと
ゆ〳〵うへつう
れとあれ〳〵て
わちつき奈により
かりものをまが
そのときさへうる
らぞたまうると
ろうれとらつく
あぞせぐん六ハ
ちくやちはさ
まうりあのびやつか
かまへらとたち
おらのやぶれとと
あくて面にねるやん
六がらまとあのちの
はまでにらつくろく〳〵

まつの家とき
おらいやへさて次にそうかて
かきひろだへせいらにつられて
より云やそてひそうきんなお
あぞ〳〵もてへらの人のぞる十

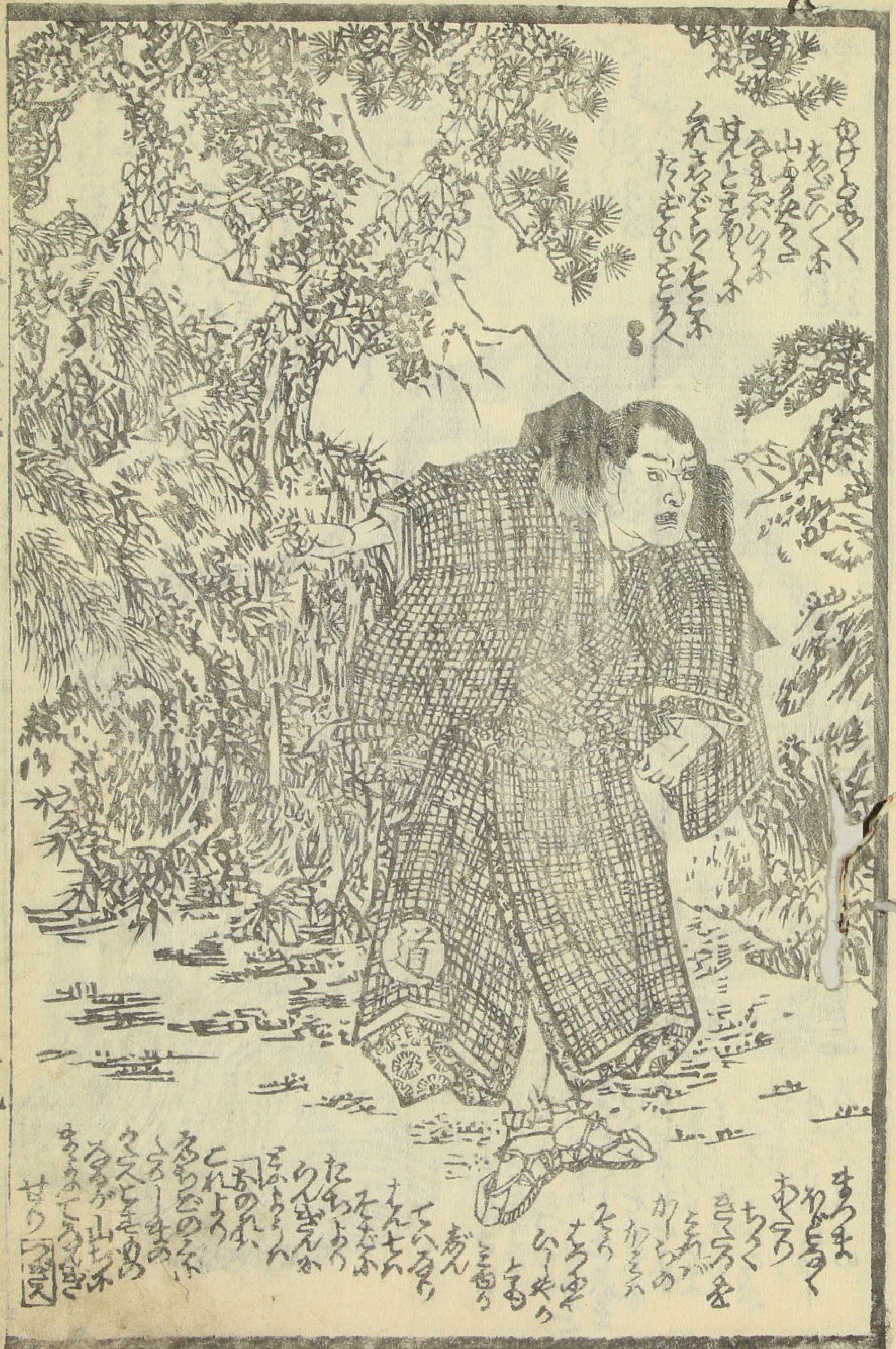
ろさんもあれぞ
はせ七どのある
さとりうか
きてつるその
おひうきなじらく
とらおりのか
よとりのにおえ六も
やるくら仔ぞひ
よろづのそつるさん〳〵やの
森のまたいふのひ
あゆまそのつぐの日
ゆきの寺さよかつ九をを
そもらひき〳〵べ
おそらやもとくみ
あてきらられより
かもひおめかさ
うらふかやらう
さんのまさ
ふくろ
みやへ
どび六が
おもたがう

ふう
七

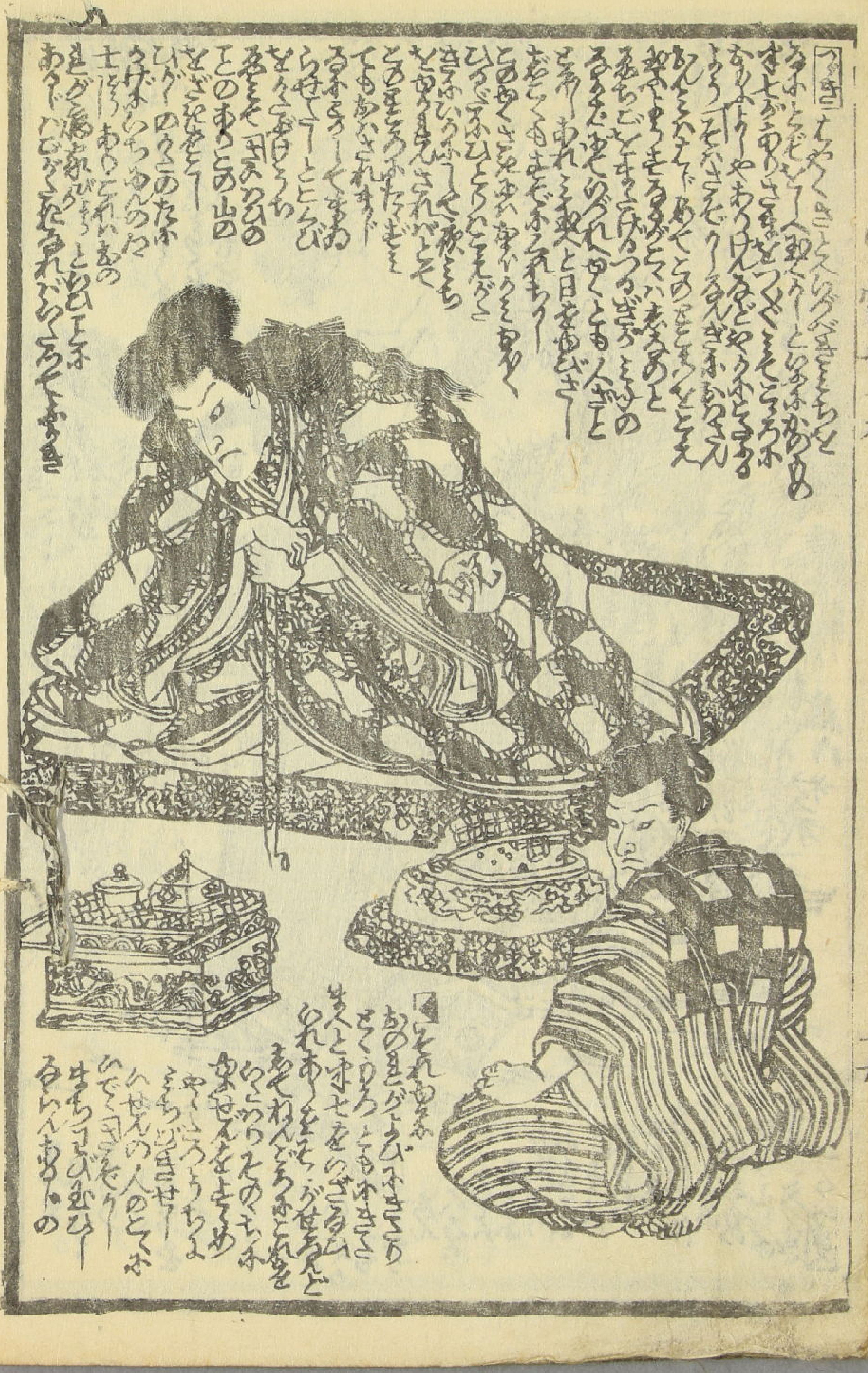
あやめがかくいふをきゝてそれとせんとぞ其のまゝに
よまひをゆするにおゐて六かぢとおはりにもなれをつげ
とのことじよがいのせゐかげけり
ふつごふにて四ゐんにとそせきの下にそえてやくそう
ろく日もあらでまものくるほどいづくへかゆかん
はつれしうへはいづくにもふかくかくれ
かゞりとならづくりけむ
きよくぐづれをあとにして
のめづらしく七日めにいろまいりをとぐ
ちのりもちいてすがたのむかしの
きゆらのごとくそれにふかくかくれ
どうらうちへはてれんをまどぶつゞきて
わとろきをのとのそをのちにせんとて
これよりまうしあげそろのぢの山ぢ
おいそぎやまちとさきへめぐり
うろうへとぎのふかのへそたひらへ
とぞかまはらとたちのへせしめの
てふべあるよりきたさへ入りてして
わくらぎあらべしとそのまゝ
妻ぞしとひきこぞわる
らわぎうくなぎこちかかうれを
つげくろのかけをたちいたく
まみおくのぞのみやおちうしちゃ山を
うちこていくおのふかのいくつ
まますぎへのでんじとぞ山ぢを
かゝるとぞ見ちくかれのの
わがとゆらみめちゝまきしかゆ



まへゝ
わづかく
あまり
ちかく
きたる念を
かんちの
かへりへ
そちちやや
ひとつやり
とみ
ごめり
あん
てんあより
まんまん
みてなぶ
たちよらり
らんばんか
ほかよらん
一方のおのれ、
これより
あちらのへ
ふかしきの
うへとそのめ
みながら山ぢに
まちかまへんきく
せり〔つゞく〕

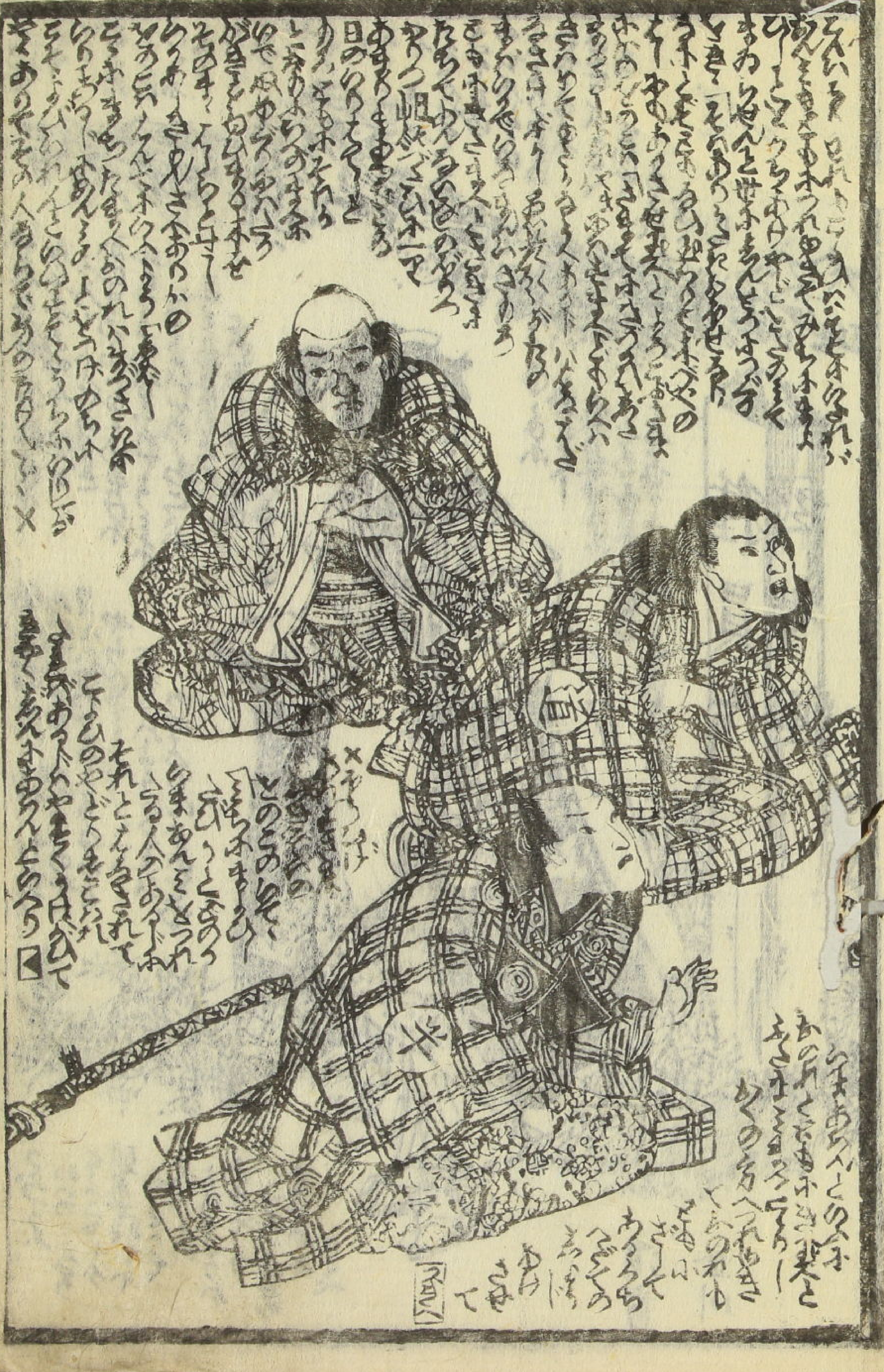


めいよく
あさましく
山の奥に
なまやさしいに
世とまめしくに
気をちらく在家に
たのむところ



つゞき　ちやくさこと久しう[illegible]べきをもちきと
るかにぞかし[illegible]とはかのめ
まう七が言のさまぞつく〴〵そうろふ
なりより[illegible]わりけんをと知らふとる
ようそのほかそ[illegible]んぎんおさえ
れんこんだて[illegible]このあとをすゝえ
勘平[illegible]もる[illegible]とて八表男のと
まちこそ[illegible]のつむぎ[illegible]その
[illegible]のられせくとも人きと
[illegible]あれ勘と目をむきさし
おそくもまそ[illegible]れまり
とのおくさまへ[illegible]うとまう
ひつぎ[illegible]とられへえく
[illegible]いうのかして勘平もち
とやうまへにさればとぞ
このまゝのかたちをを
てもあかされずト
[illegible]じきことするの
らせて一トとび
をくをけうち
[illegible]の
このおとの山の
をさそそを
ひげ[illegible]のこのたる
[illegible]の
士[illegible]あり・どれもあの
主が[illegible]とおもふ
あるかいびれなからくろさぞよき

◀それゆゑ
あの主が[illegible]きさり
さくのろとてもわきさ
生人と守七をのざるの
のれあしをそちがせうど
あそれんどうかとれを
らからそのもちふ
家せんをよとめ
やくいろうちよ
まちがさせ
へせんの人のとてふ
[illegible]
[illegible]
[illegible]の



そのはを日ごろのへいびとるのされば
あんまき[illegible]すつれ中[illegible]みをしのかつくまよ
ひとくう[illegible]やごへてらりさく
すから[illegible]んとせふきんとうすうず
とき[illegible]そのあらためさせ
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
日のうちて[illegible]と
[illegible]
[illegible]
[illegible]
そのすく[illegible]
[illegible]さかあのかの
その[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]×

×[illegible]
とのこのそ
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]◀

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
さて

つゞく

嘉永六年癸丑孟陬發市標目

兒雷也豪傑譚（じらいやがうけつものがたり）　廿一篇　廿二篇　廿三篇　柳下亭種員作　一雄齋國輝画

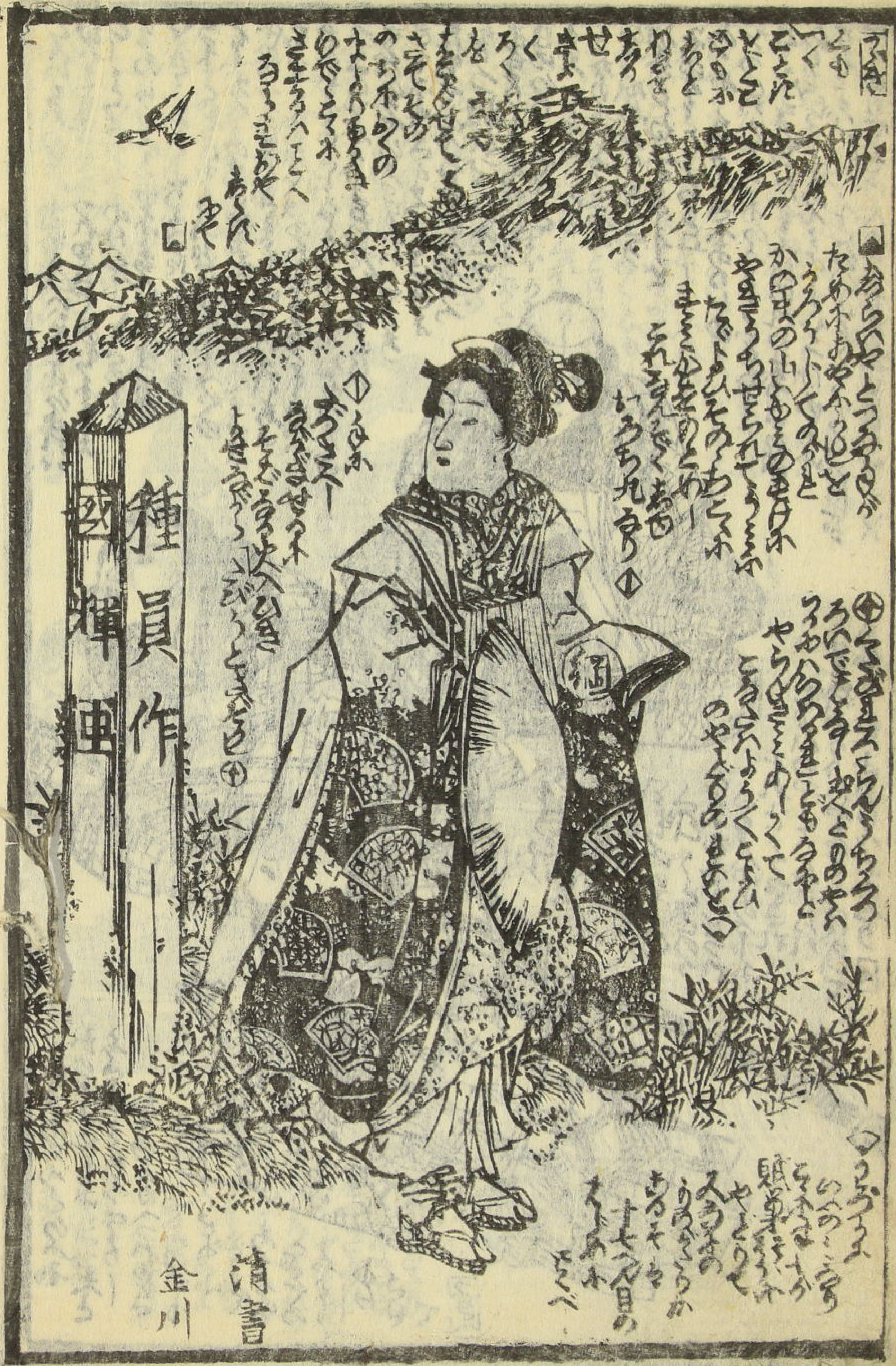
八篇
女郎花
[illegible]
石臺
柳下亭

今業平昔面影（いまなりひらむかしのおもかげ）　笠亭仙果作　一猛齋芳虎画　六篇　七篇

祥瑞白菊物語（しやうずいしらぎくものがたり）　緑亭川柳作　錦朝樓芳虎画　五篇　六篇

新編金瓶梅全輯（しんぺんきんぺいばいぜんしふ）　自初編至十編大尾　曲亭馬琴翁作　一陽齋豊國画

書肆　甘泉堂芝神明前　和泉屋市兵衛版



[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

種員作

國輝画

清書　金川